



九州大学経済学部同窓会
事務局 〒819-0395
福岡市西区元岡744
九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
郵便振替 01750-6-21743

目次

令和2年度行事予定(総会のご案内) / 1

特別寄稿

BrexitとEU経済

九州大学大学院経済学研究院長 九州大学EUセンター長

岩田 健治 / 2

「ガン」闘病私記

九州大学名誉教授 大屋 祐雪(昭和26年卒) / 4

支部だより

東京支部 事務局長 吉元 利行(昭和53年卒) / 6

関西支部 事務局長代理 清丸 泰司(平成2年卒) / 8

なにわに残る古代天皇の足跡

理事 中野 善文(昭和51年卒) / 9

福岡支部 副支部長 高木 直人(昭和57年卒) / 10

福岡支部交流ゴルフ会 第66回コンペを開催!

鎌田 幸治(平成21年QBS卒) / 11

アサヒビール園でサロン会を開催 福岡支部事務局 / 12

世界で最も美しい散歩道を歩く

貞刈 厚仁(昭和52年卒) / 13

お知らせ / 14

大分支部 松本 始(平成9年卒) / 14

同窓生健筆模様

Management, Uncertainty, and Accounting: Case Studies, Theoretical Models, and Useful Strategies, 2019, Palgrave Macmillan, 350pp

九州大学名誉教授 西村 明 / 15

リレー随想

マルクスと経済同窓生——搾取論周辺を巡る随想

九州大学名誉教授 福留 久大 / 17

津守ゼミOB O G懇親会を終えて

原園 孝(平成2年卒) / 18

豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」がもたらした出逢い

仲 義雄(平成10年卒) / 20

人物往来～新教職員紹介 / 22

経済学部名誉教授の会 / 25

国際学術交流振興基金執行状況報告

国際交流委員会委員長 大下 丈平 / 26

卒業生就職状況 / 27 同窓会役員名簿 / 28

同窓会歴代会長 / 32 同窓会からのご願い / 32

令和2年度行事予定(総会のご案内)

令和2年度の各支部総会を下記の通り開催いたします。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集下さいますようご案内申し上げます。

令和2年度 関西支部総会

日時 令和2年5月23日(土) 15時～

場所 ハートンホテル北梅田

(大阪市北区豊崎3-12-10 TEL(06)6377-0810)

〈お問い合わせ先〉 関西支部事務局 谷村 信彦

公益財団法人 大阪観光局

TEL(06)6282-5908

E-mail tanimura-n@octb.jp

令和2年度 東京支部総会

日時 令和2年7月7日(火) 18時～

場所 学士会館 210号室

(東京都千代田区神田錦町3-28 TEL(03)3292-5936)

〈お問い合わせ先〉 東京支部事務局 吉元 利行

TEL (090) 8877-9012

E-mail t29yoshimoto@aol.com

令和2年度 広島地区九大法・経同窓会総会

日時 令和2年11月開催予定

場所 未定

令和2年度 全国・福岡支部合同総会

日時 令和2年6月15日(月) 18時～

場所 ソラリア西鉄ホテル福岡

(福岡市中央区天神2-2-43 TEL(092)752-5555)

〈お問い合わせ先〉 福岡支部事務局 国生・高木

公益財団法人九州経済調査協会内 TEL(092)721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

特別寄稿

BrexitとEU経済



九州大学大学院経済学研究院長
九州大学EUセンター長

岩田 健治氏

〈戦後の欧州経済統合と英国 —関税同盟と単一市場〉

EUの源流となったEEC(欧州経済共同体)が独仏伊ベネルクスの6カ国で発足したのは1958年。英国は、EEC流の統合の深化を嫌い、1960年に北欧諸国やスイス、ポルトガル等とEFTA(欧州自由貿易連合)を発足させた。資本主義の原理に基づく戦後の欧州統合はこうしてスタートした。このうちEECの統合は早い速度で進み、1968年には関税同盟を完成させた。曲折を経て1972年には英国も、隣国アイルランドおよびデンマークとともに、EECがECSC(欧州石炭鉄鋼共同体)などと統合して67年に発足したEC(欧州経済共同体)への加盟を果たした。

英国にとってECへの加盟は、EC関税同盟への加盟を意味した。EC諸国との間の財の貿易が無関税となったことで、英国の貿易構造は、1980年代にかけて、旧来の英連邦諸国や米国との貿易から、大陸欧州との貿易へと大きく転換した。輸出入双方の過半がEC諸国との貿易となったのである。この過程で、英国はいわゆる「関税同盟の利益」を手にするようになる。従来貿易のなかったEC諸国から新たに無関税製品が輸入され、消費者はより安価に消費財を手にすることができ、また英国の製品の輸出も容易となり成長に寄与した。

財の貿易を妨げているのは関税だけではない。製品規格や規制の相違、税制の相違、国境でのチェックなど、様々な要因が「非関税障壁」として、域内の財、サービスの移動を妨げていた。さらに、生産要素(資本と労働)についても、域内の移動には様々な制約がかかっていた。ECが1980年代半ばから92年にかけて進めた「単一市場(域内市場)」とは、こうした各種非関税障壁の除去を通じて、「財・サービス・資本・労働」の4つの移動の自由を実現し、「国民国家」の寄せ集めであったEC全体を一つ

の「国民国家」のように統合する壮大な試みであった。単一市場創設により、国毎の規制に守られ競争力を失った大企業が、再びECの他の諸国の有力企業からの競争に晒される(=国際寡占間競争)。その過程で、域内レベルでの企業再編が繰り返され、「規模の経済」が実現する。その結果、欧州企業は再び競争力を手にし、消費者も財やサービスの価格低下の恩恵を手にする。関税同盟を含む単一市場は、後に1999年に実現する単一通貨とともに戦後の欧州統合の柱であり、近年綻びが目立つ単一通貨とは異なり、実際に統合に参加する諸国に少ないコストで大きな便益をもたらしてきたのである。

実は、サッチャー政権下の当時の英国は、この単一市場を経済再生のチャンスととらえ、積極的にコミットした。単一市場創設のためにECが定めた270を超えるEC法(指令と呼ばれる)を、自国の国内法に置き換える際に先陣を切ったのは英国であった。日本や米国など世界の有力企業が英国を単一市場(EC単一免許制度)への足掛かりと位置づけ、拠点構築を行った結果、英国は域内最大のFDI(直接投資)受入国となり多くの利益を手にした。

〈国民投票と離脱までのプロセス〉

こうした一連の「統合の利益」を享受してきたにもかかわらず、英国は、2016年6月23日、国民投票で約52%対約48%の僅差でEU離脱を決定した。2008年のリーマンショック以降の経済低迷で単一市場の利益が後景化する一方、2015年のいわゆる難民危機や2010年代半以降のEU域内からの移民など、単一市場を構成する「人の自由移動」に係るコストが顕在化したためと考えられる。英国政府はリスボン条約第50条に則り、2017年3月29日にEUに対して離脱通告を行った。同条約の定めでは「離脱協定」を締結し、その発効をもって離脱が実現するが、協定が締結できない場合、通告から2年以内に離脱することが定められていた(ただし欧州理事会の全会一致により延長は可能)。それが本年3月29日であった。

その後のタフな離脱交渉の末、2018年11月、EU27ヶ国と英国政府は、「離脱協定」と、将来枠組みを定めた「政治宣言」とに基本合意した。「離脱協定」は2019年3月29日という離脱期限までに締結・発効させることになるが、それだけでは離脱後の英国とEUとの経済枠組みについては何も決まったことにならない。そこで2020年12月31日までの「移行期間」を設け(最大2年間の延長が1回限り可能)、英国はEUとの間の将来関係について議論・決定す

ることになる。そうした将来関係の枠組を定めたのが「政治宣言」である（移行期間終了までの間、英国はEUの政策決定権への参加資格無しで関税同盟や単一市場に留まることになる）。英国とEUとの将来枠組に関しては、EU関税同盟や単一市場に実質的にどの程度留まるかによって幾つかのパターンが議論されてきたが、「政治宣言」は基本的にどちらとも距離を置き、FTA（自由貿易地域）型の包括的アレンジを目指す形となっている。

この「離脱協定」と「政治宣言」について、EU27の側は2018年12月までに承認を終えたものの、英国議会（下院）の側での承認が大いに紛糾し、現在に至っている。最大の問題が、離脱後も英国の北アイルランドと隣国アイルランドとの間の特別な結びつき（無関税継続等）を維持すべく講じられようとしている「バックストップ（防衛策）」に、保守党内強硬離脱派が反発したことにあった。結局、3月29日の離脱期限は延期され、本年10月31日が新たな期限となった。（その後、テレーザ・メイ首相が辞任し、7月24日にボリス・ジョンソンが首相に就任したことにより、さらに混迷の度が深まっている。①バックストップ条項を修正したうでの協定に基づく離脱、②合意なき離脱、③離脱の再延期、そのどこに転ぶか、先が見通せない状況が続いている。③離脱の再延期となった場合、解散・総選挙や2度目の国民投票などの可能性もある）。

〈合意なき離脱は英国GDPを最大10.5%押し下げ〉

EU離脱のマイナス効果は世界に及ぶことになるが、最大の影響を受けるのはいうまでもなく英国である。イングランド銀行が昨年11月に出した報告書『EU離脱のシナリオと通貨・金融の安定性』によれば、「合意なき離脱」で、かつEUが第三国との間で締結している通商協定を英国が利用できなくなるという「無秩序シナリオ」に陥った場合、関税や規制上のチェックなどの非関税障壁の復活に加え、国境の税関検査でも大きな混乱が生じる。それにより、2023年の実質GDPは、国民投票前の2016年5月時点の予想よりも10.5%マイナスになるという。失業率も現行の約4%から2020年には7.5%に、インフレ率も現行の2%台から同年には6.5%に、それぞれ跳ね上がる。加えて、金融も不安定化するという（『日本経済新聞』2019年4月23日「経済教室」所載の拙稿を参照）。

このように「移行期間無しの合意なき離脱」のダメージは大きく、大きな経済ショックが英国を襲うことになる。英国政府やEU27も、合意なき離脱の

混乱に備え、暫定的な関税率の公表、金融におけるEU単一免許暫定的継続、航空・鉄道など運輸における混乱回避などの準備を行っているものの、どこまでダメージをコントロールできるかは未知数である。

イングランド銀行の報告書は「合意なき離脱」が英国の産業に及ぼす影響について、①関税や国境での税関など、②規制の相違の復活、③労働の自由な移動の阻害、④EUによる補助金減少、という観点から産業別に分析している。食料・農業は上記の①の他、③と④からも大きな影響を受ける。英国のリーディング産業である化学・医薬品と自動車は共に①と②の直撃を受け、運輸サービスは②と③の影響を受ける。建設・不動産は③と④に若干の影響をうけつつ経済活動が域外に再配置されることでも大きな影響を受けることになるという。日本にとっても特に深刻なのは自動車産業だろう。合意なき離脱で、EUへの輸出に関税（自動車は10%）が復活すれば英国製自動車の主要な輸出先であるEUでの競争力を削ぐ。さらに通関で大きな混乱が生じた場合、EU27との間で形成しているサプライチェーンが大きな打撃を与える。英国の自動車生産は日本のメーカー（日産、トヨタ、ホンダ）が過半を占めるが、ここに来て次期モデルの生産を日本に戻したり（日産）、英国での生産からの撤退を決定したり（ホンダ）するメーカーも出てきており、工場が立地する地域経済の雇用不安をもたらしている。

〈統合の利益を放棄し衰退の道へ〉

戦後の欧州統合は、世界経済のなかで相対的に没落する西欧各国資本主義が、国民経済の桎梏を取り払うことで再活性化をし、グローバル経済で生き残りを目指すいわば「延命策」の側面を有していた。EU加盟国は、自国の経済上の「国益」を、その国家主権の一部譲渡と引き換えに「経済統合の利益」を入手する形で実現してきたのである。EUからの離脱によって英国は（程度の差こそあれEU27も）、こうした「統合の利益」のうち、冒頭で見た「関税同盟の利益」と「単一市場の利益」の全てまたは一部を失うことになる。「経験論」の国・英国では、「主権を取り戻す」という離脱派の主張が、実は「国益」に背くものであることが遍く理解されるのは、「統合の利益」消失を実際に「経験」してから、ということになるのかもしれない。（2019年9月脱稿）

特別寄稿

「ガン」闘病私記



九州大学名誉教授
大屋 祐雪氏
1951(昭和26)年卒

下記のような私事をこの会報に書くことについては、やめたい気持がないではないが、この同窓会の会員で同病の人

たちには意味のないことでも無かろうとパソコンをたたくことにした。

昭和34年4月大学院5年課程を修了、結婚して熊本商科大学に着任して1年後、熊本在住で旧制の同じ中学校同級卒の(I、Y、M、俺)4人が飲み屋で同級会をもった。宴たけなわの頃、熊大医学部の助手になっていたMから「おい大屋、おまえの耳の横に出ている“こぶ”は小さいうちに取っておかないと、どんどん大きくなり処理に困るようになるぞ、俺が属している教室で取ってやるから、夏季休暇に來い」と言われた。

夏季休暇を待って、生まれて1年にもならない赤子の祐を妻が抱いて手術室の前の廊下で待つことになった。やがてドクターMの「局麻始めます、メス」の声とともに耳下で痛みを感じたのと同時に、「X先生を呼んでくれ」のM君の慌てた叫び声を耳にしたところまでは覚えていたが、後のことにまったく記憶に無い。

眼が覚めるとMがベッドサイドにいて「君も経済学とは言え研究者だからおれの所見をそのまま言っておく。“ガン”だったよ。病理教室の判断を待たねばならないが、これからのことは、また相談するよ」と言って彼は立ち去った。

帰宅して妻に経過を告げると、「そうで無いこと」を祈りますと妻は言い、彼女なりに妻として以後、今日まで何かと面倒をみてきている。

熊大での術後1週間が過ぎた頃、Mが我が家に現れて「熊大、九大、順天堂大に依頼していたガンに関する情報は、いずれからもガンとして処置されたしであった」という。「ガン」に関する治療のことを尋ねると、「ガン」に関しては研究、治療いずれもまだ揺籃期で俺もそれ以上の情報は知らない、い

ずれにせよ急だったので詳しく調べてみないとわからないと言う。万事休すである。それでも俺なりに聞いたり、図書館で調べたりしてみたが徒労であった。

電話は当時まだ普及していなかったもので、事情を手紙で柳川の父に知らせると、父からは折り返し速達便が来た。開封して読むと、「大屋の家には肺病の血筋があるとは知っていたが、“ガン筋”とは聞いたことがない。乾燥ドクダミ草を送ったので毎日煎じて飲むように」とあり、「祐雪おまえの顔色はガン病人のそれとは違う」と文末にしたためであった。

ある日「九大広報」を見ていて、突然Iのことを思い出した。九大学友会で彼は理・農委員、俺は文系委員だった。ある時Iが「おじさんが大学をやめて、大塚のガン研究所で苦勞しているらしいよ」と言っていたことを思い出した。すぐに熊本から九大の医学部に彼を訪ねて俺がガンで苦しんでいることを話し、君の叔父さんに紹介してもらえないかと頼んだ。「いいよ」と彼は二つ返事でペンを取ってくれた。

熊本の我が家に帰り、必要と思われる物と「大風呂敷の原稿」を提げて上京した。「ガンと宣告されたこと」は熊大での術後すぐ高橋正雄先生に知らせていたので、上京して千駄谷のお宅を訪ねた。先生はご在宅で「君のことは家内に伝えてあるから、2階の俺の書斎を自由に使いなさい」とありがたいご配慮をいただいた。先生は当時九大の教授とGHQとの“二足の草鞋”を履いておられたので多忙であった。

俺はI君の紹介状を持って大塚のガン研究センターを訪ね、I先生の診察をうけた。「手術はうまくいっているようだから、コバルトを4週間使ってみましょう」と若い医師に申し渡された。

高橋先生の2階の書斎で大風呂敷から原稿や思いつきメモ、批判者の論文などを床に並べてみたが、頭も心もガンのことでいっぱい思考の焦点が定まらない。結局考えることをやめ、ガンのことで俺にやれることはなに一つない、「ガン」は「ガン任せ」、好きなように暴れたがよい、治療はすべて「ガン研にまかせてある」、そう開き直ってみたが、熊本にしている妻と祐のことがなによりも心配だった。4週間の通院治療も終わり、高橋先生はご不在だったので、奥様にお礼のご挨拶をして熊本への帰途についた。わが家での生活が3日、10日、30日過ぎても患部には何の異常も見られない、一安心である。さらに半年、1年、3年、5年過ぎても患部に

再発、転移の兆候は見られなかった。

昭和36年の暮れ突然一橋大学の松川七郎先生から速達便が届き開封してみると、「よい大学の統計学の空席を埋める人事を私が任せられているので、あなたに上京のご意志がございましたら推薦したいと考えていますが、いかがでしょうか」と記されている。大変ありがたいご配慮であり、俺としては「ガン」の再発でもあれば、東京なら「ガン研」に通院できるので、ご提案をお受けしようと考えた。高橋先生に松川先生からのおさそいの件を相談すると、松川さんとは近々「お逢いする」とのお答えであった。数日後先生から熊本商大に電話があり、「松川さんの申し出の件は、九州大学で採用が決まったので、松川さんにはあなたからその旨をよろしくお伝えしておいて下さい」とのことであった。

急なことでその年の年末は多忙を極めた。明けて3月祐をつれて妻も福岡に来た。公務員宿舎は空いていなかったので大学近くの酒屋の倉庫の角に間借りした。4月経済学部に行ってみると俺の研究室はまだ用意されてなかった。先生の研究室を訪ねると、「4月はGHQで東京です。それでこの部屋はあなたがよいように使ってください。ただ、あなたが見て高橋にとって入用と思われる資料は、棚の左端に整理して置いておいて下さい。その他の配布パンフレット類は貴方の処分に任せます」とのことであった。

11月まで先生は不在なので山とある資料類から、将来俺の役に立つかもしれないと思う資料のことに頭に置いて、ぼつぼつ選別を進めていた。ある日、労働力調査票、小売物価統計調査票などと一束にくくられた英文のレポートらしいパンフレットに気づいた。そのなかの一つが後年ライス・レポートと呼ばれるパンフレットである。俺はこのライス・レポートを素材に数本の小論文を書いて昭和43年5月教授になった。その数日後、米軍のファントム戦闘機が板付基地への帰途九大で建設中の電算機センタービルに墜落した。それが動機となってファントムの板付基地使用と九天上空飛行禁止を求める全学闘争へと拡大した。7月突然業者が10数名の米兵とMP同道でファントムが宙づりになっている電算機に近づき「あっ」という間にファントムを引き下ろし、MPに守られて学生と教職員の抗議を無視して走り去った。

9月になると求人担当社員の姿が目につくようになり、卒業予定の学生は落ち着かなくなっている。おれは学部の役回りが多忙をきわめる日々であった。

ある日、会議で江田島の兵学校で先輩の医学部のN教授と一緒にあった。俺の顔を眺めて「大屋君、君の耳下腺が気になるが、専門の先生に紹介しておくから一度診察してもらいなさい」と忠告された。

早速、耳鼻科をたずね教授の間診と診察を受けた。「メスを入れる前に放射線科まで連絡をとっておきましょう」で手術が始まった。妻は手術が終わるのを廊下の椅子で待っていた。俺は手術が終わるとそのまま放射線科に委ねられた。教授らしい先生が「ベータトロンを4週間やってみよう」と若い医師に命じて部屋を去られた。後になって「病室を出られた方は入江英雄先生ですよ」と教えられた。部屋で寝ているだけで何もすることが無いので、若い頃、僧侶の父から半強制的にすすめられて読んだ「歎異抄」を今度は自発的に読んでみようと思いついた。4週間も終わる頃、目を覚ますと病室の天井に小虫がウヤウヤ動いているようなので、看護師に来てもらって、何とかしてくれと頼むと「あなたの幻覚ですよ」とまったく相手にしてくれない。イヤな思いを辛抱して翌朝目覚めると、天井の小虫は一匹もいなくなっている。私には思い出だけでもいやな幻覚だった。若い医師がきて「退院されてもいいですよ」と言って立ち去った。放射線の治療効果があったのか、もともと隠れ「ガン」だったのか、今後いつまた出るのか、現状ではわからないらしい。

続「ガン」闘病私記

長く中断していた「ゼミ卒」の懇親会が開かれることになった。いつもは一次会で「さよなら」するのに、その日は二次会までつきあってしまった。

翌朝外出しようと洋服に腕を入れようとしても、「ぶらぶら」で通らない。とっさに脳梗塞と判断して家内に救急車を呼ばせ「日赤病院」に運んでもらった。発病して病院までほぼ15分で急患病室に運ばれ、問診が終えたところで、俺はすぐに自己リハビリをはじめた。テレビの医療番組で脳梗塞の治療後は手足の自己リハビリをすぐ始めるのが有効と報じられていたことを思い出しそのとおりに実行した。それが最高によかったらしいが、それでも運筆には障害が今も残っている。その点パソコンが使えるのは大助かりである。この「ガン闘病私記」もパソコンで書いている。

その後、皮膚に腫れ物がでたので、長尾病院の先生の紹介状をもって「福岡日赤」の皮膚科を訪れた。先生とお会いして、問診を受け、念のため病理に検査を依頼しておきましょうということになった。数日後祐とともに呼び出しを受けた。皮膚科の先生は

祐にペーパーを渡してご家族とも話し合ってみて下さいと申された。祐は紙を俺に渡して「父に話せば十分です。手術お願いします」。これでまた痛い目に会わねばならない。「万事休す」である。

翌日手術室に入ると準備はすべて終わっており、先生の「メス」という声で手術が始まった。それから3、4時間しかたっていないのに、俺の頭の中でどういう事がなされていたのか後刻思い出そうとしても何も浮かばない。ただ、耐えられなく痛かった気分だけが記憶の隅にあった。手術が終わった先生は椅子にかけて、「もう一つの髪の毛の下の皮膚ガンに

は薬物治療をしてみましよう、その薬効をみて手術を考えてみましよう」と言われた。

先生にはすでに情報がはいていたのかもしれない、数日後の朝日新聞の朝刊に、ノーベル生理学賞を受けられた博士と協力していた製薬会社との共同研究で開発された薬物が皮膚ガンに有効と報じられていた。俺にとっては天与の恵みである。それで「痛い手術」は後回しで、一日置きに家で看護師の処置を受けることになった。俺にとって「ガン」との付き合いは、まさしく"待てば海路に陽が差す"である。

支部だより

東京支部

東京支部では、毎年4月の土曜日に新卒者歓迎会、7月7日に同窓会総会・懇親会、12月に「OBOG現役生懇親会」を開催するほか、8月の九大東京同窓会の「サマーフェスタ」を共催しています。これらの企画にあたり、年2回の理事会と数回の若手理事会・事務局会議を開いております。

東京支部の活動状況は、Facebookで「九州大学経済学部同窓会東京支部」を検索いただくと、ご覧になることができます。

1. 2019年新卒歓迎会

4月6日(土)午後3時から品川駅前の「しごとのプロ出版社」の事務所をお借りして、新卒歓迎会を開催しました。今年のテーマは「デジタルテクノ



ロジー・AIであなたの未来はどう変わる?」。秦支部長(三井住友海上火災保険元会長)のあいさつの後、平成28年卒の若手理事嶋田さんの司会で、リヴァンプの水田氏の基調講演、その後4つのテーブルに分かれて、新卒者が既卒者に会社や東京の暮らしなどについて質問するフリートークタイムに入りました。各テーブルでは、先輩への質問と回答に熱心に聞き入り、テーブルチェンジを挟んで熱心なトークが繰り広げられました。出席者は新卒15名 卒業2年目2名、3年目以上19名の36名でした。そのあとは恒例の記念撮影を行い、二次会にも多数の参加者がありました。

2. 理事会の開催

理事会を4月9日(火)午後7時から、5月30日(木)午後7時から、いずれも有楽町にある九大東京オフィスにて、開催しました。2回の理事会では、新卒歓迎会開催の報告のほか、7月の総会に向けた準備として、会員向けの案内の状況、役員の補充、決算について協議しました。特に問題点として、同窓会名簿に記載された関東地区在住の同窓生の数が10年前の約3100名から2200名強に減少しており、その原因として卒業以降の住所変更が行われていないこと、転職や企業の合併や社名変更等に伴い、電子メールが届かない人が150名余にのぼって、同窓会の案内方法の整備の必要性があげられました。

3. 総会・懇親会

今年は、7月7日が日曜日になったため、変則的に7月5日(金)午後6時から学生会館210号室にて総会と懇親会を開催しました。

総会で、事業報告、決算・予算と役員の交代案の承認をいただきました。



記念公演は、九大経済学研究院長に就任された岩田健治教授に「BrexitとEU経済」と題して、近代ヨーロッパにおける経済活動の変動と現状及びBrexitが実現した場合のEU経済への影響などについて講演をいただきました。

懇親会には、福留久大名誉教授、丑山優名誉教授、堀江康熙名誉教授、岩田研究院長、磯谷明德教授、清水一史教授、大坪稔教授、鷲崎俊太郎准教授の出席をいただきました。また、来賓として、同窓会関西支部の小森田憲繁支部長をはじめ、福岡支部、本部事務局から、また九大東京同窓会の櫻井龍子会長（法学部卒・元最高裁判事）をはじめ、法学部東京同窓会、農学部同窓会東京支部からの出席をいただき総勢80名で開催しました。

今年は、新卒者13名が参加するなど、若年層や女性の参加が目立ち、たいへん盛り上がりました。

4. Summer Festa2019

経済学部でも事務局を担っている九大東京同窓会では、毎年恒例のSummer Festa2019を8月最終土曜日に開催しています。今年は、8月31日(土)17時から東京銀座のコートヤードマリOTT東武ホテルにて開催され、経済学部からの50数名を含む3百数十名が参加しました。

会場に入ると、来場者にはラムネがふるまわれ、浴衣姿の多数の参加者が雰囲気盛り上げます。開会は、映像コンテンツを駆使した九大と九大東京同窓会の歴史の振り返りからはじまりました。久保千春総長のあいさつ後は、主要出席財界人のスライドによる紹介などが行われました。

20を超えるテーブルに割り振られた参加者

は、同じテーブルの参加者に自己紹介したり、名刺交換を行いました。懇親会も後半は、テーブル対抗クイズ大会。今年は、経済学部東京支部副支部長の伊東信一郎ANAホールディング会長から、福岡往復のペア航空券が景品提供されており、テーブルメンバー協力し合って、回答にも熱が入りました。

経済学部出席者を見ると、サマーフェスタに出席しているものの、経済学部同窓会には出席していない人が約半数。開催時間が同窓会より1時間長く、イベントの内容が豊富で、エンターテイメントとしても練られているサマーフェスタに負けない七夕総会にするにはどうすればよいか、今後の課題です

【東京支部事務局長 吉元 利行 昭和53年卒】



関西支部

～訃報～

令和元年4月7日、関西支部元支部長の鈴木多加史氏（昭和33年卒、元追手門学院大学学長）が逝去（享年84歳）されました。鈴木氏は、平成10年6月から平成14年2月まで、第4代支部長として、同窓会関西支部の発展のために尽くされました。平成22年11月には恒例の秋の勉強会において、「日本の大学について」と題して講演もいただきました。温厚なお人柄と冷静な身の処し方が偲ばれます。心からご冥福をお祈り申し上げます。



関西支部総会の報告

令和元年5月18日（土）午後3時より、ハートンホテル北梅田において、全国総会ならびに第44回関西支部総会が来賓・同窓生合わせて約55人の参加のもとで挙行されました。

支部総会に先立って開催された全国総会では、同窓会本部藤井事務局長から提起された平成30年度事業報告・決算報告や令和元年度事業計画・予算、役員交代、会則変更などが審議され、承認可決された後、第1部の総会が谷村事務局長（H3卒）の司会により進行。まず小森田支部長（S46卒）が挨拶に立ち、新しい元号である令和に入って関西支部の総会が初めてとなること、相撲部の旧7帝大戦で九大が最下位でなかったことを紹介し、今後の同窓会行事へも積極的に参加してほしいなどと呼びかけがあり、続いて谷村事務局長が関西支部の行事報告・行事計画、役員改選案、会計報告を行い、全会一致で承認されました。そして、今年4月に経済学研究院長に就任された岩田健治先生より、伊都キャンパスの現況、英語講義や留学を通じて経済学・経営学分野の専門性をグローバルな場で積極的に展開する力を身につけるための「G P roE（経済学部グローバル・ティ



「プログラム）」の概要、文系4学部副専攻プログラムの説明など大学の近況報告がありました。

第2部の講演会では、中野善文氏（S51卒、大阪観光ボランティアガイド）より、興味深い講話をいただきました。（内容は9～10頁に収録）。



第3部の懇親会では、清丸事務局長代理（H2卒）の司会により進行。太田副支部長（S46卒）の開会あいさつに始まり、名誉教授、大学・本部、福岡・東京支部、法学部関西支部から参加されたご来賓の紹介・挨拶の後、貫同窓会長（S43卒）の発声により乾杯が行われました。宴も和やかに進む中、平成2桁年度以降卒業（予定を含む）の若手に登壇してもらい、それぞれが自己紹介を行いました。ちなみに、卒業順・敬称略で、凌雲翔（16）、福本翔悟（20）、田中貴彦（26）、南裕也（27）、杉本達哉（30）、富田港斗（31）、平野史也（31）、羅鈴（31修）、西尾佳奈（在学生）の9名です。そして、宴たけなわの中、今回で顧問を退任される佐野壬彦先輩（S38卒）が制作に尽力された九州大学歌集C D（①松原に、②聳えて高さ、③春の賛歌、④見よ紺碧の）の披露と視聴があり、同氏の指揮により全員で学生歌“松原に”を斉唱し、最後に中野光男副支部長（S50卒）の中締め（大阪締め）によりお開きとなりました。



今後、令和元年9月18日（水）に第60回秋のゴルフ会（三木よかわCC）、11月16日（土）に見学会（世界遺産となる古市古墳群と河内ワイナリー）、令和2年3月に第61回春のゴルフ会（場所未定）を実施する予定ですので、関西在住の同窓生は是非お誘

い合わせの上、ご参加ください。お待ちしております

【関西支部 事務局長代理 清丸 泰司 平成2年卒】

なにわに残る古代天皇の足跡



関西支部同窓会理事

中野 善文氏

1976(昭和51)年

奈良、京都は誰でも知っている日本の古都であるが、大阪はその前からの長い歴史をもつ古都である。しかも、今日まで途切れることなく繁榮し続けている世界でも稀有な都市である。さらに、遡ること4千年前の縄文人の人骨が大阪城の東南に隣接する森之宮貝塚から発掘され保存されている古い歴史の地である。「平成」から「令和」に元号が変わるこの時期に、なにわにおける過去の天皇の足跡を、改元や、万葉集などを交えながら、追ってみる。

1、応神天皇、仁徳天皇、聖徳太子、大化の改新の舞台

・難波津に咲くやこの花冬ごもり今は（を）春べと咲くやこの花 王仁（競技かるた序歌）

高さ屋に登りてみれば煙立つ民の竈は賑わいにけり

・応神天皇が、九州から河内に進出し大隅宮を、そして子の仁徳天皇が高津宮を上町台地のどこかに作って1600年ほど経っている。（場所はまだ、発掘されていない。）

・この時代の天皇陵とされる古墳のある古市古墳群、百舌鳥古墳群には、世界有数の規模を誇る巨大古墳が多数存在している。（今年、世界文化遺産に登録された。）

・これらの古墳群のほかにも、日本書紀、続日本紀などに記録された重要な遺跡が大阪に現存している。

・仁徳天皇は、「難波の堀江」の掘削、20kmの「茨田の堤」構築などの大規模治水工事で水位を低下させ、大和川デルタや淀川デルタに耕地を増やした。「難波の堀江」は、今、天神祭りの船渡御を行う大川だと考えられており、また「茨田の堤」も京阪大和田駅の堤根神社に遺構といわれるものが保存されている。

・国際貿易港の「難波津」は、大和川木津川や淀川で、飛鳥、藤原京、平城京、恭仁京、長岡京、平安京な

ど古代の都の全てとつながる重要拠点にあり、博多経由で中国朝鮮半島など海外とつなぐ物流拠点であった。遣隋使、遣唐使船の出発港であり、推古天皇21年（613年）にこの難波と明日香を結ぶ難波大道や丹比道（今の竹内街道）、横大路が作られ、一部は（最古の官道として）日本遺産に認定された。

・この港の横の高台の大阪歴史博物館とNHKの敷地から、巨大古墳造営の王権が作ったとされる大型倉庫が16棟発掘された。同じ場所で、7世紀の孝徳天皇の難波長柄豊崎宮内裏西方官衙の巨大倉庫群も発掘された。

・また有名な、物部と蘇我や聖徳太子の宗教対立も、舞台はこの難波河内であり、没収した物部の難波の資産を使い、四天王寺は建てられた。

2、万葉集となにわ

・その物部守屋の難波宅跡に建つ鵜森之宮は、聖徳太子創建の、父の用明天皇と母の穴穂部間人皇后を祭る神社である（社伝）。その境内の歌碑の歌

鵜の渡せる橋に置く霜の白きを見れば

夜ぞふけにける 百人一首 大伴家持

・万葉集の成立は不明な部分が多いが、大伴家持が重要な役割を果たしていることは疑いない。

・元号「令和」が万葉集の中の「大伴旅人らが梅花を詠んだ歌32首の序文にあるとし、ゆかりの地の太宰府市にはにぎわっているとのこと。（20年ほど前に筑紫歌壇の歌碑巡りに参加したことがある。）

・この「令和」を推したのが、万葉学者の中西進氏と言われるが、中西氏は、府立大阪女子大学学長をされたことがあり、大阪ゆかりの人物。世間では中国の『文選』に収録された「帰田賦」の影響が指摘されているが、かねてより中西氏は、東晋の書聖、王羲之が353年に書いた「蘭亭序」という、蘭亭で行われた曲水の宴で読まれた詩27編の序文と、万葉集の序文の形式とが同一であるという指摘をされている。「中国では唐の初めに漢詩に序をつけることが流行する。この傾向は万葉集の中にも入り込み、独特な表現様式を持つことになった」と論じている。

・家持は、38歳のころ、聖武天皇造営の後難波宮で、防人関連の任についており、万葉集の80余りの防人の歌は、難波時代の家持が収集したとされる。防人の歌の間に、多くの家持の歌が挿入されている。

・なお、難波長柄豊崎宮の造営時期652年以前の地層から、日本最古の万葉仮名の木簡が発見されている。「皮留久佐乃皮斯米之刀斯」（はるくさのはじめのとし）、はるくさ木簡と呼ばれている。難波には、万葉集成立の1世紀以上前から万葉仮名が存在した

ことになる。

・桓武天皇の長岡京の造営では、大極殿など主要建物は、聖武天皇の後期難波宮から移築された。家持は、その死の直後に起こった長岡京造営藤原種継暗殺事件の首謀者として、官位はく奪、財産没収をされており、その没収されたものの中にあつた歌の資料が、万葉集の根本になった可能性が高い。そのためか、家持の歌が万葉集全体の4516首中、473首ある。ちなみに、旅人は76首、坂上郎女84首、防人84首。

3、かつて難波でおこなわれた天皇即位と

関係の深い儀式

・八十島祭（大嘗祭の翌年に、難波で海に向かい、天皇の衣装の箱を振る）。新天皇の即位の際、大嘗祭を行なった翌年に難波津にて行われた、即位儀礼の1つである。史料上の初見は嘉祥3年（850年）9月の文徳天皇即位時で、鎌倉時代の元仁元年（1224年）12月の後堀川天皇即位時まで計22回が確認されている。それ以前の天皇の難波行幸の記録多数ある。文武天皇697年即位1年半後難波行幸、聖武天皇724年即位翌年難波行幸など。だが、八十島祭か

どうかは書かれていない。体の弱い聖武天皇が、難波に少なくとも7回の行幸をされたのも、難波の海の持つ力と関係があるのかも知れない。伊勢の齋宮も、任務終了後、難波で禊を行っていた記録がある。

4、元号について

・日本最初の元号は「大化」（645年から650年）。645年の乙巳（いっし）の変で蘇我入鹿などを倒した直後に即位した孝徳天皇が、初めての元号「大化」を定めた。そして、難波に遷都直後の大化2年の正月に、大化の改新の詔を發し、アジアの強国、唐や高句麗などに対抗するかの様に、中央集権化に乗り出し、国力の強化に努めた。

・大化6年（650年）に、「白雉」（はくち）に祥瑞改元、白雉5年（654年）まで存在。しかし、斉明天皇の重祚後、元号途切れる。復活は、686年天武天皇崩御の年の「朱鳥」元年。（以下略）

（編集部注記：2019年（令和元年）5月18日全国・関西支部合同総会での講演を再編成して頂きました。）

福岡支部

1. 来賓・同窓生等220名が参集し、盛大に開催

～福岡支部2019年度総会～

2019年度（令和元年度）の福岡支部総会は、6月18日（火）にホテルニューオータニ博多において開催しました。6月8日（土）～9日（日）にG20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議が開催されたため、重ならないように例年より少し遅い日程で開催しました。総会では、福岡支部の2018年度事業報告・決算案、2019年度事業計画・予算案、役員選任案等が



熊野先生による特別講演

審議され、いずれも原案通り承認されました。

続いて特別講演会に移り、九州大学学術研究・産学官連携本部准教授で九州大学起業部顧問の熊野正樹先生に、「九州大学起業部の挑戦」と題してご講演いただきました。九大公認の部活動としての九大起業部の活躍ぶりをわかりやすく紹介していただくとともに、熊野先生の熱い思いが伝わるような素晴らしいご講演でした。



貴会長の開会挨拶

懇親会には、過去最高の220名の来賓や同窓生等が参加し、大盛況でした。貫正義同窓会長（福岡支部長兼務、昭和43年卒）に開会挨拶をいただき、来賓として法学部同窓会事務局長の五十君麻里子法学研究院教授にご挨拶をいただきました。

それから名誉教授の紹介に移り、10名の名誉教授の皆様にご登壇いただきました。そして今年99歳の白寿を迎えられる木下悦二先生に、経済学部同窓会



木下先生の白寿のお祝い

の貫会長よりお祝いの品を贈呈、木下ゼミOBの伊東信一郎東京支部副支部長にお祝いの言葉を述べていただき、木下先生より謝辞をいただきました。木下先生は昔病弱だったけど福岡に来て体調が良くなったこと、昔山登りをしていたことが健康の秘訣ではないかとお挨拶されました。最後は、名誉教授の皆様が揃って記念写真を撮られました。今回の総会は大勢の名誉教授に参加していただいたおかげで、これまでにない思い出深い総会になりました。

その後は、岩田健治経済学研究院長をはじめとする現教員の紹介、留学生の紹介と続き、乾杯のご発声は、秀村選三名誉教授に賜りました。その後は、恩師を囲んでの懐かしい話や同窓生同士の歓談で宴は盛り上がりました。

閉会の時間も近づいてきた頃、森恍次郎福岡支部監事（S45年卒）に歌（谷村新司の「群青」）を披露していただきました。続いて、恒例の九州大学応援歌・学生歌「松原に」の映像を流し、参加者全員



秀村選三先生乾杯の挨拶

で合唱しました。最後は貞刈厚仁福岡支部副支部長（S52年卒）に博多手一本を入れてもらい、令和元年度（2019年度）総会は閉会となりました。

今回の総会は福岡銀行の同窓生の皆さんに幹事役をつとめていただきました。おかげさまで、福岡支部総会・講演会・懇親会を盛況裡に終了することができました。この場を借りて、ご協力を深く感謝申し上げます。

【文責：福岡支部事務局】

.....

2. 福岡支部交流ゴルフ会 第66回コンペを開催！ ～5月12日（日）伊都ゴルフ倶楽部



優勝者 鎌田幸治氏（右）

三洋ビル管理株式会社
鎌田 幸治氏
2009(平成21)年QBS卒

令和初の福岡支部「第66回交流ゴルフ会」にて優勝させていただきました鎌田です。

S62年に工学部を卒業後、H21年に、社会人の大学院（経済学府）である九大ビジネススクール（QBS）を修了したご縁で、経済学部同窓会にも所属し、終身会員となっています。

当日は、さわやかな気候の中、47名の同窓生（28名が平成卒）が参加されました。

前回、打倒！道永先輩（ベスグロ常連、今回は欠席）を目標に、奇跡的にベスグロが取れたこともあり、今回同伴いただいたメンバー（平田俊次様（S56卒）、渡邊啓一郎様（S63卒）、堀正英様（H7卒））からは、スタート前からありがたいプレッシャーをかけられ、楽しくラウンドさせていただきました。

残念ながらOBを4発たたき、同伴メンバーからの期待には応えられませんでした。メリハリのあるスコアが、みごとダブルペリアにはまり、優勝となりました。

表彰式では、白水清隆様（S62卒）の絶妙な司会にて、参加者による一言スピーチが行われ、交流が深まりました。中でも、木村博先輩（S58卒）の驚き！の近況報告には、元気をいただきました。



伊都ゴルフ倶楽部クラブハウス前で集合写真

新たに、学部を超えた九州大学福岡同窓会が設立されています。設立の際には、貫正義会長（九州大学福岡同窓会会長）をはじめ、経済学部同窓会の方々にも大変お世話になりました。設立時の幹事長として、この場を借りて、御礼申し上げます。

貫正義会長、高木直人福岡支部事務局長（S57卒、福岡同窓会幹事長）から、QBSのみならず、九州大学福岡同窓会（対象は九州大学の卒業生、または勤務者）の方にも、経済学部福岡支部交流ゴルフコンペ参加を、声かけていいよ、と言われており、ありがたく参加させていただいています。開かれた同窓会に改めて感謝申し上げます。

おかげさまで、道永幸典様（S56卒）田原浩様（S57卒）渡邊啓一郎様（S63卒）田川真司様（H2卒）、岡部麻子様（H6卒）はじめ、コンペで一緒させていただいた方々とプライベートでもゴルフ交流を楽しんでいます。

毎回、幹事を務めていただいている、高木直人様並びに九州電力の皆様にも重ねて感謝申し上げます。



ゴルフ会表彰式

今後、ゴルフをきっかけとした交流が益々盛んとなることを祈念しつつ、交流ゴルフ会の報告とさせていただきます。

.....

3. アサヒビール園でサロン会を開催



今年も盆明けの8月21日（水）午後6時半、福岡支部恒例のアサヒビール園懇親会（サロン会）が開催されました。名誉教授の福留先生、山本幹雄氏（昭和31年卒）、檀豊隆氏（同40年卒）、市川順一氏（同49年卒）、坂井智明氏（同51年卒）、嶋田正明氏（同54年卒）藤吉由貴氏（平成14年卒）、そして事務局の高木の計8名の参加でした。皆さん、出来立てビールとジンギスカンを味わいながら歓談し、あっという間の2時間でした。

【文責：福岡支部事務局】

.....

4. 世界で最も美しい散歩道を歩く (特別寄稿)



経済学部同窓会福岡支部副支部長
株式会社博多座 代表取締役社長

貞刈 厚仁氏

1977(昭和52)年卒

福岡市の副市長を3月末に退任することとなり、4月から2ヶ月半ほど仕事の

空白があると判った今年3月初め、ニュージーランドに行くことを思い立った。早速ミルフォードトラックトレッキングの参加を申し込んだ。

空きがあって幸運だった。ニュージーランド南島のフィヨルドランドの中にあるこのトレッキングルートのガイド付きツアーは10月下旬から4月下旬の半年間のみ催行されている。世界中からハイカーが集まり予約はすぐ埋まるという。一日の入場も100名以下に制限されている。

アプローチは遠かった。福岡から成田、オークランドを経由しリゾート基地クイーンズタウンへ。そこからバスで数時間、テアナウに到着。更にボートで1時間進みスタート地点に辿り着いた。

早朝グレートハウス・ロッジを出発。透明度の高い川沿いを歩いていく。氷河が削ってできた標高2000m近い岩峰群が両側にそそり立つ。手付かずの森や溪流、人懐っこい鳥たち。大自然を満喫しながら歩く。3日目、トレッキングコースの最高地点は1146mのマッキノン峠。周囲の岩峰に残る氷河を望みながらカールからカールへの爽快な峠越え。

年間降水量は6000mmに達し一旦雨が降ると山肌に無数の滝が出来るそう。晴天時に枯れない滝も多数ある。3日目のロッジから1時間、ハイライトのひとつ、サザーランド滝は岩峰直下にある小さな氷



キャッスルマウントの谷を歩く



マッキノン峠

河湖を源に落差580m、近づくとも脈を打つ水が襲い掛かって来るような迫力。このトレッキングルートは、この三段の滝に至るために開かれたとのこと。確かにそれだけの価値がある。翡翠色の水に満たされた湖もある。



サザーランド滝

歩を進めるごと

にページをめくるように想像を遙かに超えた景色が60kmに亘って展開していく。最終日、ミルフォードサウンドで見た満天の星、銀河の中の南十字星、大小マゼラン雲には心が躍った。

手つかずの自然がそのまま残されている一方で、トレッキングルートは大変良く整備され歩きやすい。しかも4泊するロッジはどれもシンプルながらホテル並みの快適さ。洗濯乾燥の設備もあるので荷物は最低限でよい。食事も美味しい。毎朝各自でランチのサンドイッチを作って順次出発。先頭のガイドを追い越さないというルールの下、自分のペースで歩けるのも良かった。心地良い徒歩旅を堪能した。このルートは開かれてから130年以上。なんと既に1908年にはロンドンの雑誌に「The Finest Walk in the World」と紹介されたと言う。

世界でも珍しい温帯性雨林で地形的にも孤立している。ほとんどが日本で目にしたことのない動植物。コウモリ以外の哺乳類が居なかったため鳥の楽園で、飛べない鳥も多い。道にもウエカという鳥がよく出て来た。一方人間が持ち込んだ害獣によって絶滅の危機に瀕している鳥も多数いると言う。イタチ駆除の罠箱もあちこちで見受けられた。粘菌

や外来の種子を持ち込まない努力もなされていた。ニュージーランド入国時、トレッキングシューズの靴底は洗って乾燥させていることが求められる。今ある自然を国の資産と考え守っていこうという気概を感じた。

南島は日本の面積の三分の一強のところに人口100万ほど。トレッキング終了後、長距離バスでサザンアルプスの最高峰マウント・クックの麓に立ち寄りながらクライストチャーチまで移動した1泊2日の行程でも、殆ど町らしい町は見当たらない。途中宿泊した「世界一、星空が美しい」テカポのように、美しく雄大な自然を資源とした観光が主な産業のひとつとなっている。オーバーツーリズムの波は此処にも押し寄せ、クイーンズタウンの町には中国語が溢れホテルも取りにくくなったと言う。皆さんお早めにお出かけください。

.....

5. お知らせ

(1) 交流ゴルフ会第67回コンペのご案内

福岡支部では、恒例の標記交流ゴルフ会を下記の通り開催します。ご友人等お誘いあわせのうえ、多

数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 令和元年11月10日(日)

当日は7:30にスタート室前にご集合ください。

アウト及びイン第1組7:50同時スタート

場所 伊都ゴルフ倶楽部 糸島市香力474

TEL (092) 322-5031

(2) 忘年会のご案内

福岡支部では、忘年会を下記の通り開催します。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 令和元年12月10日(火) 18:30～

場所 八仙閣本店

福岡市博多区博多駅東2丁目7-27

TEL (092) 411-8000

※メール、郵送、同窓会のホームページなどでご案内していますが、本会報をみて参加を希望される方は、下記事務局までご一報ください。

〈上記お問い合わせ先〉

福岡支部事務局 高木、国生

公益財団法人九州経済調査協会 内

TEL (092) 721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

大分支部

大分県支部第22回総会及び懇親会が、平成31年2月8日(金)18時00分、22名の会員の参加の下、大分市のトキハ会館5階「ローズの間」で開催された。

まず、幹事の園田文治(昭57卒)の挨拶の後、議事に移り、前年度の経過報告・決算を承認して終了した。

昨年同様、九州大学大分同窓会「豊松会」と同時開催であったが、次年度は、「豊松会」と同時期でなく、経済学部の総会は夏か秋に開催し、年2回程

度は交流の場を持ったほうが良いとの意見があった。幹事会で日程を調整後、経済学部の総会を行なう方向で今後進めていく。

引き続き19時から、同じローズの間で開催された九州大学大分同窓会「豊松会」の懇親会が開催され、経済学部の同窓生もこの会に合流した。懇親会は、83名が参加し、久保千春総長のメッセージに続き、大学の紹介映像が流れると、各テーブルから学生時代を懐かしむ声が上がった。有志の方々の協賛による抽選会も行なわれ、盛大な雰囲気で行進した後、散会した。

【大分県支部事務局長 松本 始 平成9年卒】



同窓生健筆模様

**Management, Uncertainty, and Accounting:
Case Studies, Theoretical Models, and Useful Strategies,**
2019, Palgrave Macmillan, 350pp



九州大学名誉教授
西村 明氏

1 この度刊行しました著書は、標準原価計算や予算統制などから成る管理会計がなぜに20世紀初頭に生まれ、今日の原価企画やリスク管理にまで発展してきたのか、その形成と展開の論理を、不確実性を機軸に考察したものです。その内容の詳細をここで論じることは紙幅の関係でできませんが、幸い大下丈平教授が雑誌『企業会計』（中央経済社）2019年4月号に正鶴を得た形で論評しておられ、私自身も同じ雑誌の1月号から3月号に「私の学問遍歴」というコラムにおいて本書の刊行に至るプロセスを書き、また、『経済学研究』第84巻3号と第85巻2・3合併号に本書の第1章と第9章に関連する論文を公表していますので、参考になるかと思います。そこで、ここでは本書の作成過程で感じたことを少し書かせていただきます。

2 本書の刊行に際して、まず、九州大学経済学部の先生方や共に学習した親愛なる学生諸君との出会いに感謝しなければなりません。学問を第一に考える学風や、海外との学術交流を時間的にも資金的（国際学術交流金など）にも支援する体制を作り上げられた先生方や、本当に共によく学習してくれた学生諸君との出会いのお陰で、これまで長い間研究生活を続け、この度同じ出版社から2冊目の英文書を出版することができました。

3 とりわけ本書との関連でいえば、まず高哲男名誉教授と黒木亮独協大学教授（経済学部・大学院修了）に感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思います。両教授の研究業績に出会うことがなければ、本書の刊行を思い立つこともなく、思い立っても実現できなかったでしょう。両教授によるヴェブレン理論やナイト理論についての翻訳と研究論文を学習し、20世紀初頭におけるアメリカ社会経済思想の奥深さと先進性を教えられ、私の実務的で、平俗

的な研究対象を激動するアメリカ社会経済と革新的な経済思想のなかに投げ入れ、その学問の普遍性や特殊性を感じ取り、本書の表紙（私の原案によるものですが）にありますように、遠くに見える雪山を目指し、果てしない道を楽しく旅しているように、日々躍動する研究生生活を過ごすことができました。ナイトの企業家精神、ヴェブレンのirksomeness of labor（労働の嫌悪）やworkmanship（モノ作り）本能といった言葉に魅せられながら、テラーの科学的管理法や標準原価管理をこの年になり再検討し、現代的な企業リスク管理に繋がる理念を導き出すことなどは、50数年前に大学院でテラーシステムを研究し始めた頃にはとても想像できなかった大きな感動です。

4 なぜ英語で会計の本を刊行するのか、とよく問われるのですが、このこともまた経済学部在籍したお陰だと感謝しています。1993年3月から1年間ニュージーランドのオタゴ大学に滞在することを許していただきました。そこで、日本の管理会計について報告したときに、ウイレット教授はトヨタが実施している原価企画の特質についての私の説明に納得せず、標準原価管理とどこが違うのかを執拗に問い質し、明確に説明するように求めました。その後幾度か日本やニュージーランドで話し合う機会があり、この問題をより分かるように説明しているつもりですが、彼は全く首を縦に振りません。彼はそれほど日本のこのシステムに関心を持っていました。これを契機に、原価企画と標準原価管理について誰にでも分かるような論文を国際的な雑誌に発表しなければと思うようになりました。それと、オタゴ大学とそこで出会った人々は、ウイレット教授との編著書 *Accounting in the Asian-Pacific Region* の刊



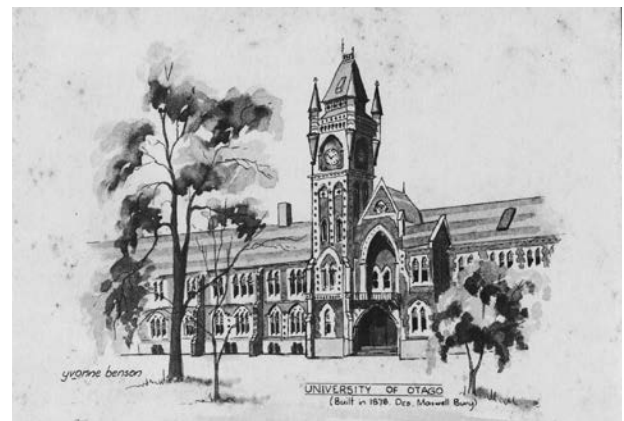
行や、また英文雑誌への投稿の際には色々と支援し、私をグローバルな学究的な世界に誘ってくれました。

5 次に述べる海外交流もまた経済学部の先生方のお陰ですが、特にフランス会計学を研究している大下教授とドイツ統計学の専門家・浜砂敬郎教授の勧めで、1999年6月にフランスのランスビジネススクールで集中講義をし、その後フランクフルト大学で講演する機会を持ちました。フランスでは文化の異なる国々からの聴講生に日本の管理会計の意味内容を伝える難しさを経験しました。ドイツでは、沢山の学生と先生方の前で日本の会計制度の特徴をドイツの会計制度と比較しながら話したのですが、国際会計学の専門家・オーデルハイデ教授が世話をしてくださり、同時に私の話に強い関心を持たれ、報告後自宅に招いていただき、会計の本質について長時間談話することになりました。その時教授は、日独会計制度の共通性と特殊性に言及するなかで、会計が非常に現実的で、利益と資産が計算でき、目に見え掌握できるようであるが、実は極めて抽象的で高度に哲学的なものであるようなことを話されました。私は、教授の学問研究への真摯な態度に感銘し、会計学をさらに深く根本的に研究する必要性を痛感し、この教示をもとに会計の認識統制機能の普遍性と論理に取り組み、またフランスでの講義の経験を生かし、ウイレット教授から与えられた宿題にも答えられるように国際的な視点から日本の管理会計を勉強しました。そして、これらの成果を本書に纏めました。嬉しいことに、ウイレット教授が本書の原稿を読み、会計文献上では欧米人にはなかなか理解し難い「日本の管理会計の土台となる考え方に極めて貴重な洞察を与えている」と書いた推奨文を送ってきてくれました（本書の裏表紙参照）。長年の悩みがスーッと消えるとともに学問研究への営みに関わっている喜びを強く感じました。

6 この度の英文書の刊行作業のなかで、今日の管理システム、情報によるモノ作り、グローバル経済など身を以って学習することになりました。マックミラン社の誰とも会ったことはないし、最初から最後までひたすらメールのやり取りだけで書物が作られたことです。もとを糺せば、15年ほど前に *Management Accounting : feed forward and Asian perspectives* という書物を同じ出版社から刊行しましたが、当時経済学部の非常勤講師としてEU経済論をお願いしていた福岡大学のエルアグラ教授にそこを紹介していただいたことに始まるのですが、編集者や校正担当者との手紙のやり取りで仕事を自分

のペースで進めることができ、また彼らの完璧な仕事ぶりに感心し、再び書物を出す時には此処しかない決めておりました。しかし、この度は、どこにも伝手ありません。一からの出発です。出版社はグローバル化し、サプライチェーンが進み、まず英国の本社に申請書を提出し、原稿の覆面レビューを受け、承認後指定された東アジア地域を担当する中国支社のスタッフと交渉し、原稿をシンガポールの支社に送り、校正はWebを通してインドの専門家とやり取りをし、この間印刷を担当するシンガポールに幾度も連絡し、本が刷り上がると本社と印税や買い上げについて交渉する。いまでは誰とどのようなことを話し合ったのか思い出せないほどです。また、この長い作業のなかで異なる国々の文化、仕事への態度や分担の違いがあり、いつも緊張し、メールを通して相手を考え、全体の仕事の流れについて行くので精一杯でした。同時に、グローバルに分散化されているサプライチェーンとの交渉でメールの背後にいる人とその作業能力を信頼し、それらの人々を想像しながら自分の作業能力を高めないと仕事が進みません。現在はグローバルな情報システム、とりわけ電子ジャーナルのお陰で家に居りながら世界の研究者の論文を読み、論文を作成し、それを外国の雑誌に発表し、あるいは著書を出版でき、研究者には大変便利な時代になりましたが、情報を読み取るためにこれまで以上に神経と能力を研ぎ澄ましておかないと、大きな過ちを犯す危険をも孕んでいます。同時に、現代経営において、極度に広がるグローバル化（不透明、サプライチェーン）とミニマイゼーション（見える化、カンバン方式）とを有機的に結合させるために、益々科学的な管理システムが要請されていることを痛感しました。

最後になりましたが、早い時期に原稿依頼を受けながら今頃になり、編集部の福留久大名誉教授をはじめ編集部の関係者にお詫び申し上げます。



オタゴ大学

リレー随想

マルクスと経済同窓生 — 搾取論周辺を巡る随想



九州大学名誉教授
福留 久大氏

フェスティバル講演会

2017年10月21日、九大アカデミックフェスティバル2017で、森恍惚次郎氏（経済学部1970年卒）の講演「マルクス、ウェーバー、ドラッカーと世界平和」を拝聴した（講演要旨は同窓会報第64号13-14頁に収録）。森さんは、九大の4年間は、人生とは何か、どう生きるべきか、正義とは何か等と悩み苦しんだ時期だったと回顧した。就中、経済学部でマルクス経済学の搾取論に接してからは、菓子製造の家業承継を巡って「お菓子屋は小さいとは言え民衆を搾取するブルジョアだから継ぎたくない」と深刻に悩んだと強調して、話が良く聞けるように最前列に座っていた私に、「どうですか、福留先生」と感想を求めた。同じく最前列にいた貫正義・同窓会長（1968年卒）が、興味深げに私の顔を覗かれるのも眼に留まった。私は、一言で感想を述べられる問題ではないので、微苦笑しつつやり過ぎしか術を知らなかった。執筆予定者の不都合で穴埋めの紙幅を与えられた機会に、そのとき胸中に去来した思いの一端を述べてみたい。

そのとき私は、心中で“I can imagine”（森さん、お気持ちはよくわかります）という英文を思い浮かべていた。半世紀以上前の1963年夏から秋にかけて、東大経済学部4年生の私は、卒業後の進路を巡って、森さん同様に「搾取する側には立ちたくない」という暗い想念に沈んでいて、搾取の現場から離れている銀行、それも外国為替専門の東京銀行に就職を決めた。（結局は、何か確実なものを学びたい思いから、東銀を断って、大学院に進学した）。そういう同病相憐れむ気持ちとともに、「森さん、悩んで大きくなったことも確かでしょう」と励ましの言葉をかけたい思いも抱いていた。飽くなき追究者だった高須賀義博（1932～1991）一橋大学教授の1988年の次の言

葉を念頭に置きながら。大学でマルクス経済学を学ぶことで、「我国のエリートには労働者の搾取に対する罪悪感が浸透している。このことが我国の労使関係により効果を与えていると言えます。エリート達は労働者や労働組合の言い分を理解した上で日本の労使関係を築いてきたと言えます」（『マルクス経済学の解体と再生・増補版』222頁）。

搾取論と収奪論の混合

森恍惚次郎さんの問いかけを受けたとき、（1）搾取論に悩んだ学生時代の共通体験、（2）搾取論の社会的効果、この二つの事情と同時に、第三の多少込み入った経済学的事情にも思いを馳せていた。その第三の事情を、「搾取論と収奪論の混合がマルクス経済学に齎した勇み足」と表現してみたい。

搾取（Exploitation）論とは剰余価値（Mehrwert）論の別名である。マルクス『資本論』第1巻「第5章・労働過程と価値増殖過程」から引用すると、こうなる。「労働力の毎日の維持費と労働力の毎日の支出とは、二つの全く異なる量である。前者は労働力の交換価値を規定し、後者は労働力の使用価値を成している」。「決定的なのは、労働力商品の独自の使用価値、すなわち価値の源泉であり、しかもそれ自身が持っているよりも大きな価値の源泉だということ独自の使用価値だった」（大月書店、岡崎次郎訳、第1分冊、338頁）。現代の経済統計（日本生産性本部『活用労働統計』による製造業2016年規模30人以上事業所平均）に照らすと、一人当たり「労働力の毎年の維持費」「労働力の（年単位）交換価値」つまり可変資本と呼ばれる（年間）賃銀は480万円。それに対して「労働力の毎年の支出」「労働力の（年単位）使用価値」である年間労働によって形成される価値つまり付加価値（価値生産物 Wertprodukt）は1443万円、この両者の差額、963万円が「剰余価値」である。この剰余価値が、賃銀を支払って労働力を購入した資本（家）＝資本制企業の掌中に帰することが「搾取」と表現された。可変資本（賃銀）に対する剰余価値の倍率が剰余価値率＝搾取率と呼ばれることになった。

したがって、剰余価値の生産＝搾取の実施は、自分の生活資料の生産に必要な労働（必要労働）を超えて剰余の労働（剰余労働）をも成し得るという人間の労働力の特質を活用した結果であって、市場交換の論理に即して見ると、何ら不当不法なところは存在しない。それは、マルクスも次のように明言する通りである。「労働力はまる一日活動し労働できるにも拘らず、労働力の一日の維持には、（一日以下の例えば一引用者補足）半日の労働日しかかからないと

いう事情、したがって労働力の使用が一日に作りだす価値が労働力自身の日価値の2倍だという事情は、買手（つまり資本（家）—引用者補足）にとっての特別の幸運ではあるが、決して売手（つまり労働者—引用者補足）に対する不法ではないのである」（前掲書、338-339頁）。

しかしながら、労働者の剰余労働によって形成された剰余価値が資本（家）によって独占されることには、心理的に釈然としない側面が残る。現に世界各地で「利潤の分割 profit-sharing」や「労働者の株式取得 employee-shareholding」が「経済民主主義 Economic Democracy」として追求されている。そういう事情の下に「搾取」に、他者から奪い取るという意味の「収奪 (Expropriation)」が重なる場合が生じる。リカード『経済学および課税の原理』「第7章・外国貿易論」に、イギリスの100人の労働の生産物・クロスとポルトガルの80人の労働の生産物・ワインが同一価格で交換される例示がある。これをマルクス『剰余価値学説史』は、貧しい国の3労働日と豊かな国の1労働日が交換される事例に置き替えて「より富んでいる国が、より貧しい国を搾取することになる」と解釈した（大月書店、マルクス・エンゲルス全集第26巻第3分冊133頁）。「搾取」が「収奪」の意味で使われたのである。地下資源の発掘・開発、人間の能力の開発・発揮、そういう意味の「搾取」と、他者の事物を強制的に奪い取るという意味の「収奪」が、このように合成され、或いは混同されて、本来は事実を事実として叙述する客観的中立的議論であった剰余価値論=搾取論が、不当不法の制度、批判され変革されるべき制度という当為的価値判断を内包した議論に変貌することになった。マルクスを含めて多くのマルクス主義者あるいはマルクス主義経済学者が、そういう「勇み足」をしてきたのではないか。

「搾取」と「収奪」の峻別がなされたならば、「資本主義的私有の最後の鐘が鳴る。収奪者が収奪される」（『資本論』1巻24章7節）というマルクスの有名な命題に論理の不整合があって成立不能であること、その命題から「社会主義の必然性」を導くエンゲルス（「空想から科学へ」）やレーニン（「カール・マルクス」）の主張が、そしてそれに従うマルクス主義者たち—私たちに親しい例では向坂逸郎（1897～1985）先生—の主張が、「勇み足」部分を含むこと等が判明するはずである。半世紀余りほぼ独学で躰きつつ『資本論』に学んできた、非マルクス主義的マルクス経済学徒の私は、いまそういう感想を抱くに至っている。（2019年9月17日）

リレー随想

津守ゼミOBOG懇親会を終えて



西日本鉄道株式会社
原園 孝氏
1990(平成2)年卒

皆様初めまして。このお話を頂いた時は少し迷いましたが、滅多にない機会ですし、またお世話になりました津守ゼミへの恩返しをと思い、かなり背伸びして引き受けた感じです。

まず私の自己紹介ですが、鹿児島県立甲南高校を卒業し、九州大学経済学部経済系学科（今の経済・経営学科）に1986年4月に入学、1990年3月に卒業後、西日本鉄道株式会社に入社し、丸29年を経過、30年目を迎えました。入社後は、経理部を皮切りに商業施設の運営部門、関係会社への出向、関係会社の主管部門を経て今年の4月より監査部門に配属されました。最近では本社が天神から博多駅前3丁目に移転になったため当初は戸惑いましたが、周辺は緑や個性的なお店も多く、新しい環境にも順応しつつあります。

今回の主題は、私が大学3年～4年時に在籍していた津守ゼミと、今年の2月に行われたOBOG懇親会の様子のご紹介です。ゼミ生だった時（昭和末期～平成初期）からは約30年、また懇親会の開催日から少し時間が経っていますので、記憶違いも多々あるかとは思いますが、お許し頂けますと幸いです。



津守ゼミ 1989年3月

担当教授の津守常弘先生ですが、1930年2月10日生まれ。懇親会当日にめでたく89歳のお誕生日を迎えられました。数えでは90歳ということで世間的には「卒寿」ですが、現在でも太宰府市の九州情報大学で会計学の教鞭を執られています。京都大学大学院を卒業後、立命館大学で教鞭を執られていましたが、1970年に九州大学に移られました。正に学園紛争の全盛期の厳しい時期に着任されたこととなります。以降1993年に退官されるまで、23期、100名以上のゼミ生を教えて来られました。学部の講義は「原価計算」でしたが、ゼミ（講座）は財務会計論（企業会計論）です。大学3年時に私が津守ゼミを選んだ動機は「就職後、何か役立ちそうだ」という曖昧で不純なものでしたが、当時ゼミで学んだ内容（四半期決算や時価会計など）が後に日本でも導入され確固たるスタンダードになったことで、当時は恥ずかしながら全くこうなることを意識していなかったにも拘わらず、内心、妙に誇らしい気分になりました。先生は厳しくも優しくありましたが、印象に残っているのは（恐らく）ポリシーである「いい意味で疑う心」、例えば有名な先生が唱えたことであっても、「まずは本当に正しいのか、自分で考えよ」という教えがゼミ卒業生に根付き、研究者、公認会計士、企業人など優秀な人材の輩出につながっていると感じます。

さて、今年の2月10日に開催されたOBOG懇親会ですが、ソラリア西鉄ホテル福岡にて42名の参加を得て、盛大に行われました。ゼミ卒業生でもある京都大学の徳賀芳弘先生をはじめ、関東・関西方面から鹿児島まで遠方からも多数の方がお見えになり、「津守先生にお会いしたい」「久しぶりに同期、先輩、後輩と交流したい」など動機は様々かと思いますが、連絡先が判明した方々のうち3分の2程度の参加率は私の予想をはるかにしのぐもので、ゼミ生の結束の固さがうかがえます。実は参加者が少なければ会場の変更も個人的には危惧していましたが、杞憂に終わりました。開会後は、当時の写真をスライド上映しながらの近況報告のコーナーでしたが、先輩方が予想通り？各人1分の持ち時間を軽くオーバー

して、かなり時間が押ししてしまいました。その中でもゼミ合宿中に車ごと池にダイブしたという先輩の「やんちゃな」エピソードも披露され、当時の話で場が大いに盛り上がりました。アカデミックな話では、「ペイトン&リトルトン」や「シュマーレンバッハ」などの著名な会計学者の話のくだりです。「？」マークが飛び交うと同時に、現在の仕事で関係しなくとも多くの方々に印象付けられていることに驚きました。津守先生の趣味が登山ですので、ゼミ合宿は必ず九重登山が恒例であり、これも話題の一つでした。思えば当時20歳過ぎの私は60歳手前の先生に軽く置いていかれていました。今でも先生の足腰が達者な所以です。会場のホテルにもご配慮頂いて3時間近く経過した会の最後では、先生が少し長いご挨拶でしっかりと締められました。先生はゼミ卒業生を全



懇親会 2019.2.10

員覚えておいでで、心身ともにお元氣な先生のご健在ぶりに驚嘆するばかりでした。昭和の最終年にゼミに入り、平成の最後に本会を開催する巡りあわせに年月の経過の早さを感じるのと同時に、運営に携わることで多くの再会を含めた出会いを愉しむことができました。生意気なことを言うようですが、これをきっかけに先生とゼミ生同士の関係がまた「再開」されることを期待します。

最後になりましたが、開催のきっかけを作った経済学部の潮崎先生、世話人リーダーとして引っ張って頂いた工藤先輩、ご支援頂いた内村先輩、安藤先輩、吉崎先輩、宮本さん、石井さん、参加された皆様に改めて感謝申し上げて締めさせていただきます。

リレー随想

豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」がもたらした出逢い



九州旅客鉄道株式会社
営業部担当部長
仲 義雄氏
1998(平成10)年卒

1998年に九州大学経済学部経済工

学科を卒業し、地元のJR九州に入社しました。在学中の思い出といえば、「経工14組懇親会(亭々舎)」、「ジロー風スパゲティ(六本松軽食)」、「ラ・フォーリ(テニスサークル)」です。ゼミは矢田ゼミでした。とても緊張感があり、真面目に取り組んだことを覚えています。矢田先生とは卒業してからもお会いする機会があり、「仲君は言うことを聞かない困った学生だった」といつも厳しいお言葉をいただいています。

入社後、主に鉄道事業本部の営業部という組織で、社員管理、宣伝観光開発、観光列車(JR九州ではデザイン&ストーリー列車と呼んでいる)などを経験し、一大事業でもあった九州新幹線全線開業を迎えたばかりの2011年5月、私は当時の社長から呼び出されました。「九州を一周する新たな豪華寝台列車をつくろうと考えている。その担当を仲君がやってくれ」という思いもかけない話に戸惑いながらも「頑張ります」とだけ言ったことを覚えています。日本に前例のない豪華寝台列車をつくる、という挑戦の始まりでした。

私は新列車の立ち上げのプロジェクトリーダーで



ななつ星 in 九州

ある鉄道事業本部営業部長の下の担当課長という立場で、列車の運行にかかわる全体スケジュール管理とソフト面(運行ルート、販売、車内サービス、クルー採用・養成)を中心とした業務を任されることとなりました。ハード面(車両製作)は専門の運輸部にもプロジェクトをつくり連携して進めていきました。

これまでにない豪華寝台列車をつくるというプロジェクトにおいて、私たちが行ったのは「自分たちの目で見て、耳で聴いて、体験し、自分たちが価値をつくる」という言わば“自分マーケティング”でした。国内のラグジュアリーと言われるホテルや旅館はもちろん、優良顧客をもつ旅行会社等へもヒアリングを重ね、先輩格の海外のオリエントエクスプレス等の豪華列車にも試乗しました。「豪華さとはなにか」という問いの答えを模索して訪ねてきた私たちに、ある方は的確なアドバイスをくださり、ある方はおもてなしを通してヒントを示してくださいました。九州の鉄道会社がそんなことを成し遂げるはずがない、と後にこの列車に私たちがつけた「クルーズトレイン(※)」という名称を揶揄して「クレイジートレイン」と呼んだ人もいます。そんな高額な商品は売れませんよ、という言葉には落ち込むのではなく、奮起させられました。「そういう旅を待っていた、ぜひつくってほしい」というあたたかい言葉とともに「絶対に成功しますよ」と背中を押してくださった方々からは運行開始後も何度もアドバイスをいただき、自信に繋がることになりました。さらには、見たことのない列車の構想だけで、旅行会社にも卸していない部屋を全室提供すると申し出てくださった旅館のオーナー、毎週列車に乗り込んで最高の料理を提供することをお約束くださった料理人の方々、お客さまの特別な体験のプランを一緒につくってくださった地域の方々、日本中から集まり、日本初の豪華列車の車両制作に心血を注いごくださった職人の方々…多くの方との出会いとご協力の中でクルーズトレイン「ななつ星in九州」(以下「ななつ星」)の旅はかたちをつくっていったのです。

出会いの中には、九州大学経済学部の同窓生との再会もありました。車内で使用する器を探していたときのこと。デザイナーと私たちの「食事を引き立てるシンプルな白磁の有田焼」という希望が通らずに終わった某製磁会社との打ち合わせの帰路で、ふと思い出し、同行していたデザイナーの先生に「同窓生が有田で焼き物の窯を継いだと聞いたのですが寄ってみませんか」と尋ねてみたのです。同窓生の中村清吾君が有田で焼き物をつくっているらしい、

という話は聞いていたのですが、卒業以来の彼との再会を果たしたその日、私は初めて彼がとても美しい白磁の作品をつくっていることを知りました。理想の器の前に歓喜するデザイナーの「この器に列車のロゴマークを入れることはできますか？」という問いに清吾君が「やってみます」と答えた瞬間に、「ななつ星」のプロジェクトに彼も参加してくれることになったのです。今考えても、とても不思議な縁を感じます。

有田焼がご縁となった出会いはほかにも。オリエンタルエクスプレスに乗車した際、室内装飾にルネ・ラリックの作品が使われているのを見た私たちは、日本・九州版の豪華列車には有田焼で装飾をと考え、当時の人間国宝でいらっしゃった十四代酒井田柿右衛門先生にお願いしてみることにしました。1点でも作品をつくっていただければ、と依頼したところ、「九州を世界へ発信するための列車」をつくりたい、という趣旨をお聞きになった先生は「それは私の仕事ですね」と快諾くださり、車内の全部屋の手洗い鉢のほか、ラウンジカーの装飾など、多くの作品をつくってくださったのでした。十四代酒井田柿右衛門先生のご訃報を聞いたのは手洗い鉢を納品いただいた僅か4日後。最期の仕事に選んでいただいたことへの強い感謝の念と、病床で最後まで職人でいらっしゃったことへの心からの尊敬を禁じえません。後を継がれた十五代の柿右衛門先生からは、お父上が「ななつ星」の仕事をととても楽しんでくださっていたというお話もよく伺います。「ななつ星」のためのいくつもの未完成の作品も見せていただきました。今、毎週土曜に有田に立ち寄る「ななつ星」のお客さまを週替わりで窯元にご案内していますが、柿右衛門窯にご案内するときは十五代柿右衛門先生が、清六窯では中村清吾君がそれぞれお客さまに車内で使われている有田焼のお話をしてくださいます。先日は十五代と清吾君と私とで福岡で楽しいお酒をご一緒することもできました。出会いの連鎖を嬉しく思います。

薩摩焼の十五代沈壽官先生も、同じく「ななつ星」のプロジェクトを通じて知り合った恩人の一人です。お客さまの特別な体験（窯元での沈先生ご自身による講話やおもてなし、絵付け体験）の対応をいただいたほか、沈先生がお声掛けを下さったことであの銘酒「森伊蔵」を車内でご

提供できるようにもなりました。慣れて少し気の緩みを見せたクルーへのお叱りをいただいたことでもあります。「私はお客さまに来てほしいから『ななつ星』を手伝っているのではない。『九州を世界へ発信する』というJR九州を粹に感じたから協力しているのだ」

という真摯な言葉をいただき、気の引き締まる思いをさせられました。誠実に向き合い、常に成長のための強いことばもくださる沈先生との出会いもまた、この「ななつ星」によってもたらされた私自身の財産です。

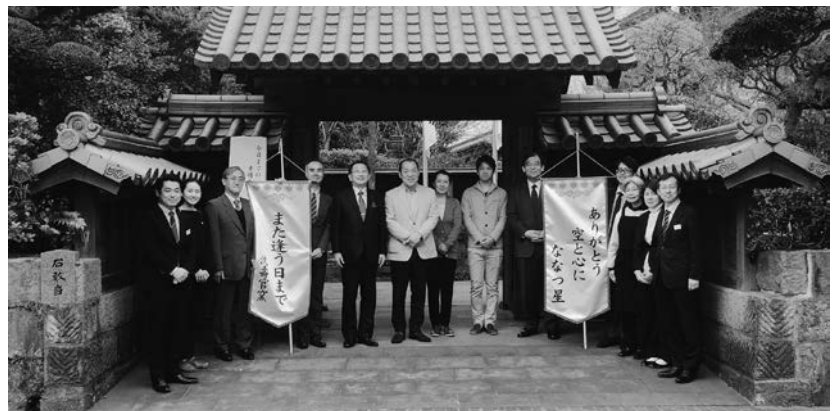
その豪華さにより華々しく語られることの多い「ななつ星」ですが、決してJR九州だけではなく、このように名前を挙げればきりがなほの多くの出会いと力によって誕生した奇跡の列車だとあらためて思います。

「私たちは『ななつ星』の旅で、“ご自身とのめぐり逢い”、“共に旅するパートナーとのめぐり逢い”、“地域の方々とのめぐり逢い”を感じていただきたいのです。「ななつ星」をご紹介するときいつも言うフレーズです。たくさんのお会いから生まれた列車は、今日もあたたかい沿線の笑顔に見送られながら新しいめぐり逢いを乗せて走っています。

(※) 陸のクルーズを楽しむ列車という意味を込めて名付けた。



洗面鉢



沈壽官窯の皆さまと

中央ページのジャケットの方が沈先生、左端が筆者

人物往来 ～新教員紹介



松永 正樹 准教授

【自己紹介】

はじめまして。経済学研究院産業マネジメント専攻（九州大学ビジネススクール、QBS）准教授、松永正樹と申します。QBSでは「組織行動」及び「リーダーシップ論」の授業を担当するとともに、芸術工学研究院、ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）との三部局連携プログラムの立ち上げプロジェクトにコアメンバーとして参画しています。

私は、福岡の出身で、西南学院大学で学士・修士号を取得し、その後、フルブライト奨学金を得て、米国ペンシルベニア州立大学のコミュニケーション学部博士課程に進学。2009年にCommunication Arts & SciencesのPh.D.を取得しました。

主な職歴は大学教員ですが、同時にベンチャー企業で働いたり、コンサルタントとして仕事をしたり

してきました。最初に教歴をスタートさせたのは早稲田大学で、その後立教大学で教鞭をとったほか、上智大学、秋田国際教養大学、公文国際学園、西南学院大学で非常勤講師を務めました。また、立教大学退職後はIGSというスタートアップでのシニア・コンサルタントを経た後、フリーランスの組織開発・コミュニケーション戦略を専門とするコンサルタントとしても仕事をして、2016年にQRECに着任。2019年5月1日からはQBSに籍を移して、現在にいたります。

QBSの授業では、組織のなかで人がみせる行動及びその背景にある心理にはどのような構造が存在するのか、望ましい行動や思考を導くためにはどのようなリーダーシップが有効なのか、そして、これらの知識を実務において活用するためには何を考慮すべきかといった問いについて、自分がこれまで培ってきた学術研究の知見に加え、コンサルティングやベンチャー企業で得た経験も共有しながら、QBS受講生の皆様とともに考えていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



前田真一郎 准教授

【担当講義】

学部：「金融システム」
「経済・経営学演習」
「経済・経営学基本演習」
「損害保険概論」

学府：「上級金融システム」

「金融システム特研Ⅰ・Ⅱ」

【自己紹介】

2017年10月に経済学研究院に着任いたしました前田真一郎と申します。もともと九州の出身で、九州大学で学生時代を過ごしました。卒業後、野村総合研究所に就職し、企業調査部という部署で証券アナリストの仕事をしていました。当時、多くの企業経営者や外国人投資家と真剣な議論をすることができたのは、いまでも私の財産となっています。2000年

にはニューヨークへ派遣され、ウォールストリートで米国金融担当アナリストとして、米国金融機関を担当しました。世界の金融の中心である米国での調査経験は、私の研究の基盤となりました。その後のご縁もあり、2005年からは研究者として教育の現場に立っています。社会人を経験した後、九州大学経済学府に入学し、改めて勉強し直しました。今から100年ほど昔の本を英語で読むなどの作業も行いましたが、そのような研究活動を通じて、物事を客観的かつ体系的に評価できるようになった気がしています。

主な担当講義は、金融システムです。世界各国にて異なる形で形成されてきた金融システムは、金融グローバル化の進展や金融技術革新によって結び付きを強めています。経済・経営学演習などのゼミナールでは、グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について学生と一緒に学んでいます。また実際に企業の方をお呼びし、討論を行う機会も設けて

います。教育の現場では、私が実際に米国で経験してきたことを踏まえて、よりグローバルな視点で物事を捉えるように導いています。

これからも日々の業務を行いながら、研究と教育

に精進し、九州大学の更なる発展に微力ながら貢献できるよう努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



北原 ともなり 知就 准教授

【担当講義】

学部：「数理計画」、
「経済工学演習」
学府：「数理計画特研」

【自己紹介】

2018年4月に経済学研究院に着任いたしました、北原知就と申します。私は千葉県出身で、東京工業大学工学部経営システム工学科、同大学社会理工学研究科経営工学専攻で学び、その後同専攻の助教として9年間務めた後、経済学研究院にお世話になることになりました。私は生まれてから30年以上関東地方におりましたので、九州の文化はとても新鮮に感じます。九州は食べ物がとてもおいしく、また、自然もとても豊かで、一家で九州生活を満喫しております。

私の専門は数理計画です。数理計画は、現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、得られたモデルを解くことによって、効率的な意思決定を目指す方

法論です。身近な例を挙げますと、電車の経路探索があります。ある駅から別の駅へ行くとき、私たちは運賃が最も安い経路や、所要時間が最も短い経路を知りたいと考えます。数理計画では、まずどのような路線があるかや路線同士の接続関係、運賃、所要時間などをモデル化し、そのモデルを数学的な方法で解くことにより、運賃最安の経路や、所要時間最小の経路を求めます。

数理計画が役立つ分野は多岐にわたり、現在ブームになっている人工知能や機械学習は、数理計画と密接な関係があります。私は数理計画の理論、応用両面に興味を持っております。特に応用面につきまして、拙稿をお読みの方で数理計画が役に立ちそうな課題をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡いただけましたら幸甚に存じます。

経済学研究院において、素晴らしい環境で研究や教育に取り組めており、大変ありがたいことだと日々実感しております。少しでもお返しするべく、経済学研究院、並びに九州大学の発展に貢献できるよう精進して参ります。皆様何卒よろしくお願い申し上げます。



中本 りゅういち 龍市 准教授

【自己紹介】

2018年4月に着任いたしました。経営管理論や組織マネジメントといった科目を担当しています。これらの科目は、

経営学の中では組織に関する科目として位置づけられています。組織についての研究は、さらに組織構造や組織文化といった組織そのものに焦点を当てたマクロレベルの領域と、モチベーションやコミットメント、チームワークといった個人と集団に焦点を当てたミクロレベルの領域に分かれています。

近年では、組織のマクロとミクロのレベルを架橋できるような手法が開発されてきています。その一

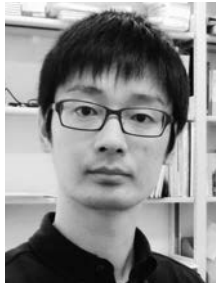
つが、社会学を背景に発展してきた社会ネットワーク理論と分析です。個人と個人がどのようにつながっているのか、さらに拡張していくと、集団と集団、あるいは組織と組織、それらの間がどのように構造化されているのかを明らかにできる理論です。こうした手法を用いながら組織の現象を捉えています。

この理論に出会うことになったのが、この仕事を選ぶことになったきっかけでした。社会ネットワークという考え方に触れることができたのは京都大学学部生の時代に開催されたセミナーです。この方法論を経営学に導入した泰斗であるロナルド・バート先生のお話を聞くことができる貴重な機会でした。彼自身はとてもエネルギッシュな話をされる方で、内容もとても刺激的でした。これがきっかけで、研究者になろうと決め、また、この領域の研究を行お

うと決めました。

これまでの研究対象は、医薬品産業や自動車産業、サービス産業、プロフェッショナル・サービスなどと一見すると様々です。しかし、その間に共通する基盤にあるのは学部生時代に触れた理論です。

学部生、あるいは院生時代は、その後の人生の進み方を決めるのに少なくない影響を受ける時間になるでしょう。大学で多様な人々に触れて自分のその後を決められるきっかけを得られるように願っています。



藤井 ^{ひでみち} 秀道 准教授

【担当講義】

学部：「現代日本経済論」
「経済・経営学基本演習」
「Introduction to Japanese Economy」

学府：「上級日本経済論」

【自己紹介】

2018年4月に着任しました藤井秀道と申します。福岡県筑後市出身です。これまでの経歴を紹介させていただきます。2004年に広島大学理学部数学科を卒業後、広島大学国際協力研究科で博士号を取得しました。その後、米国テキサス大学、東北大学、(株)富士通、長崎大学での勤務を経て、九州大学経済学研究院に移ってまいりました。

私の専門は「企業の生産性分析」です。企業データベースを活用し、生産性の変化がどのように生じ

ているかを明らかにするとともに、その要因について特定することで、日本企業が生産性を高めるための効果的な政策の提言を目指しています。

私の担当する講義に「現代日本経済論」があります。3・4年生を対象とした科目で、戦後日本の経済活動について、紹介する内容です。講義では、学生からの感想や質問などのフィードバックとして、毎回レポートを提出してもらっています。また、授業の中盤にブレイクタイムとして、行動経済学や最新の経済動向などを紹介する時間を設定し、集中力が最後まで持続するような工夫を取り入れています。特筆すべき点として、授業の中で経済実験を導入しており、講義の中で市場を構築し学生同士での売買行動を通じて、社会で導入されている制度が経済学的に望ましいものであることを体験してもらいます。この体験を行うことで、制度の理論的根拠となっている経済学の重要性を学んでもらう取り組みも行っています。今後も、受講生の興味・関心を高める工夫に取り組んでいきたいと思っています。



平野 ^{たく} 琢 講師

【自己紹介】

はじめまして、2018年4月に経済学研究院産業マネジメント部門（九州大学ビジネススクール）着任いたしました。

生まれは熊本で、故郷のある九州にて奉職の機会をいただいたことに感謝しております。

専門は、「企業倫理」と「リスクマネジメント」で、主に産業事故の防止について研究しております。これまでの職務経験において、事故調査や不祥事対応にかかわることが多く、それらの経験の中で芽生えた「企業にとっても社会にとっても望ましくない産業事故を防止したい」という強い気持ちが、自身の研究の動機となっています。長年の様々な研究にも

かかわらず、産業事故や企業不祥事の完全な防止は、なかなか達成できていないのが実情です。ただ正義を語るのではなく、不祥事や事故に至る必然性やどうしようもない理由も含めて研究し、将来的には実践できる効果的な不祥事防止策を提案することを自身の研究における将来的な目標としております。

講義は、ビジネススクールにおいて「企業倫理」と「経営リスクマネジメント」を担当させていただいております。ビジネススクールであるため、学生のほとんどが社会人学生という珍しい環境で講義をさせていただいております。着任して1年が経過いたしますが、九州大学ビジネススクールの学生の皆さんは向学心旺盛でかつ研究や学習、さらには海外研修の企画などの課外活動にとっても積極的な印象を受けます。縦横無尽に意見が飛び交うディスカッションや自由な発想の発表やレポートを通じて、教員である私の方も様々な刺激を毎回の講義でいただ

ています。学生の皆さんの熱量に負けないように、学生の皆さんの熱意を燃料として日々研鑽させていただいています。

まだまだ初任者で、至らないところも多いとおもいますが、現役の学生さんにも、そしてOG・OBの方にも、研究で得た知見や学びの場の創造を通じて

貢献させていただければ幸いです。また、九州大学の職務を通じて知り合った方々に少しでもプラスとなれば、私にとってはこの上ない幸せです。読者の皆様とどこかでお会いできますことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い致します。

経済学部名誉教授の会

例年4月に開催してきた名誉教授の会について、本年は延期を余儀なくされました。回を重ね、年を経るに従い会への参加に伴い送迎の必要が増すわけですが、会の幹事の力でその準備態勢を整える余裕が持てませんでした。ただ、今年は、6月18日の同窓会福岡支部総会に、10名ほど参加できて、しかも最長老の木下悦二先生、続く秀村選三先生の出席も叶いまして、延期した4月の会を多少とも補う機会になった思いもあります。10名が一行横隊に並んだ写真を添えました。

今回の木下先生秀村先生その他8名の参加には、以下のような事情がございました。5月13日、九大の開学記念日に、秀村先生からの要請で、福留が一緒に伊都キャンパスに出かけました。秀村先生の目標は、九州文化史研究所と経済学部秘書室への表敬訪問のようでした。驚いたことに、経済学部秘書室で、6月18日の経済学部同窓会への出席申込をされました。昨年は、出ても耳が遠く声は小さいので、貴方代わりに伝えてくれませんかということで、同窓会前日に秀村先生宅に伺って先生のメッセージを聴き取り、文書にして同窓会当日参加者に配布いたしました。今年は、同窓生へ伝えたい気持ちをより強くお持ちなのだろうと思われました。この秀村先生の出席が一つの契機になって、木下先生も「難聴の故を以て欠席していた」同窓会に、何十年ぶりかで出席されることになりました。木下先生は、春先

に肺炎で入院されまして、体調が懸念されました。秀村先生の出席申し込みの後、木下先生の体調を伺ってみました。お元気になられて、お嬢様ご夫妻と宮崎の西都原古墳や鶴戸神社に出かけられたことが判りました。そこで、秀村先生の件を伝えた結果、上のような決断をしていただけることになりました。木下先生が満98歳7か月、秀村先生が満96歳7か月ですので、同窓会本部では貫正義会長、高木直人福岡支部事務局長（木下ゼミOB）の計らいで、木下先生の白寿をお祝いする機会にもしたいということになりました。その事情が判明して、他の名誉教授の先生方も例年より多く参加して下さいました。

6月18日の懇親会について、足の弱い方が多い名誉教授の先生方向きに、会場前方に机と椅子を配置して貰えました。白寿を迎えられた木下先生、乾杯の音頭を取って頂いた秀村先生、両長老のそれぞれの役割を高木さんが用意して下さいました。参加者が220名と過去最高を記録したこと、先生方とOB・OGの皆さんが懇親しやすかったこと等、同窓会役員の方々にも喜んで頂けました。

そういう次第で、同窓会参加が今年はまずは成功裡に終わりましたが、それだけに来年に向けてどういう風に進めるか、宿題を負った感じでもありません。現役の先生方、同窓生の皆さまに、種々お知恵を拝借したく考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。(2019年9月17日) 福留久大 記



右から順に、塩次喜代明、逢坂充、荻野喜弘、木下悦二、秀村選三、市村昭三、原田溥、児玉正憲、津守常弘、福留久大 各名誉教授

九州大学経済学部 国際学術交流振興基金執行状況報告（平成30年度）

国際交流委員会委員長を拝命してから2019（令和元）年4月より4年目に入りました。今年度が最終年度となりますが、どうかよろしく願いいたします。

毎年のことと言うまでもありませんが、同窓会の皆様を中心にご寄付を頂いた資金は「国際学術交流振興基金」として長きにわたり経済学部における国際学術交流のための基盤を形成してまいりました。改めて心から感謝申し上げたいと存じます。

2018（平成30）年度の国際学術交流振興基金の執行状況につきましてご報告させていただきます。

別表にありますように、2018（平成30）年度に九州大学経済学研究院と中国人民大学経済学院とのダブルディグリー（DD）プログラムが10年という節目を迎えました。同年4月15日には、この協定の更新と10周年の記念式典を北京の人民大学において盛大に執り行いました。人民大学側からは杜鵬副学長、経済学院学術委員会主任の高徳歩教授、王晋斌経済学院副院長を初め多数の先生方のご臨席をいただき、本学からは渡邊副理事、磯谷経済学研究院長（当時）、稲富名誉教授を始め、10名程度の関係者が出席いたしました。式典の前半では、双方がこの10年間の活動状況を振り返りながら、今後このプログラムを継続して発展させていくことを確認いたしました。また式典の後半では、「新時代の中日経済関係」と題した学術討論会が開催されました。この10周年記念式典に、前述の渡邊副理事、稲富名誉教授を招待する諸経費の一部として振興基金を活用させていただきました。

2018（平成30）年度には、毎年恒例の三大学（中国人民大学、南京大学、九州大学）ジョイント・カンファレンスの第13回大会を11月に九州大学で開催し、振興基金を運営のための諸経費の一部として充当させていただきました。ちなみにカンファレンスの統一論題はResearch on Economic, Social, Environmental, and Human Resource Management Issues In Asian Regionであり、3大学の若手研究者を中心に活発な議論が行われました。また本学の院生諸君の参加もあり、教育上の成果も見逃せないものとなりました。

次に2018（平成30）年度から学部の国際コースのプログラム（略称GProE）が開始しましたが、その短期語学研修先として決定したオーストラリアのクィーンズランド大学へ最終的な詰め作業を行うために行って参りました。そして、その時の土産代として基金を利用させていただきました。

最後になりますが、別表にありますように、一人の院生が海外の学会で研究報告を行い、その支援として基金を使用させていただきました。

本年度は、例年行われてきた海外在住研究者の招聘がありませんでしたし、昨年度から始まった国立台湾大学との部局レベルの学術交流協定に基づく派遣がなく、残念な思いがしておりましたが、2019（令和元）年度には年間を通じた同大学への学生派遣がすでに決定しており、少々安堵しているところです。その派遣

申請者	内 容	期 間
【 海外派遣 】		
大下 丈平（教授）	※研究集会への参加 AUGUSTO RICARDO DELGADO NARRO（大学院生）が、第27回Eurasia Business and Economics Society Conference（インドネシア）で研究発表	31.1.7 ） 31.1.12
【 交流協定大学・機関との交流促進費 】		
儲 梅芬（講師）	※共同シンポジウム開催 第13回3大学ジョイントカンファレンス（九州大学・中国人民大学・南京大学）開催	30.11.15 ） 30.11.18
渡邊 公一郎 （留学生センター長） 稲富 信博（名誉教授）	※協定交流・講義等派遣旅費 九州大学北京事務所及び中国人民大学にて ダブルディグリーの面接・10周年記念式典出席、九州大学北京同窓会出席等	30.4.13 ） 30.4.16
【 国際交流に伴う物件費 】		
儲 梅芬（講師）	※記念品作成費等（九大記念品） オーストラリアのThe University of Queenslandを訪問	31.3.21 ） 31.3.25

の際には、また本振興基金を利用させていただきたく所存です。どうかよろしくお願ひいたします。

昨年秋に伊都キャンパスへの移転が完了しましたが、これまで以上に教育・研究の国際化が重要な戦略課題となってきました。今後とも有効かつ有益な形で本基金の活用而努力して参りたいと思います。同窓会の会員の皆様へは、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

【国際交流委員会委員長 大下 丈平】

平成30年度卒業生就職状況

平成31年3月31日現在、()は女子で内数

学 部	
就 職 先	人数()
A F P	1
AGC	1
docomo	1
GMOペイメントゲートウェイ	1
GSユアサ	1(1)
JFEスチール	2
LIXIL	1(1)
NECソリューションイノベータ	1(1)
NTTドコモ	2(1)
NTT西日本	2(1)
PLAN-B	1
PwCあらた有限責任監査法人	2(1)
Q T net	1(1)
SCSK	1
TIS西日本	1(1)
TPEC	1(1)
アクセンチュア	2
麻生	3
イオン銀行	1
イグニション・ポイント	1
イズミ	1(1)
伊藤忠商事	1(1)
インテージ	1
ウィルゲート	1
愛媛県庁	1
大分県庁	1
大阪市役所	1
大林組	1
オービック	3
沖縄振興開発金融公庫	1
鹿児島県庁	5(1)
鹿島建設	2(1)
兼松	1
関西電力	1

就 職 先	人数()
北九州市役所	1
九州NSソリューションズ	1
九州運輸局	1
九州経済産業局	1
九州朝日放送	1
九州電力	3(1)
九州日新	1(1)
九州旅客鉄道	1
九州労働金庫	1
共栄火災海上保険	1
近鉄グループホールディングス	1
熊本県庁	1
久留米市役所	1
厚生労働省東京検疫所	1
サイバーエージェント	1
参議院事務局	1
山九	1
ジーユー	1(1)
ジャパンシステム	1
商工中金	2
商船三井	1
新生銀行	1
新日鐵住金	1
スズキ	2
ゼンリン	1
ソディック	1
ソニー	1
ソフトバンク	1
損保ジャパン日本興亜	1
大学生協事業連合九州地区	1
大和証券	3(2)
大和総研	1(1)
タワーレコード	1(1)
中国銀行	1
中国電力	1

就 職 先	人数()
電気ビル	1(1)
東京海上日動システムズ	1
凸版印刷	1
内閣府	1
長崎市役所	1
西日本建設業保証	1
西日本シティ銀行	4(2)
西日本旅客鉄道	1(1)
日東電工	1
ニトリ	5(1)
日本銀行	2
日本政策金融公庫	4(3)
日本政策投資銀行	1
日本生命保険相互会社	1
日本電営	1
日本年金機構	1(1)
日本ハム	1
ネオジャパン	1(1)
農林中央金庫	1
林ホールディングス	1
パナソニック	1
バンダイ	1(1)
ヒューマンテクノシステムホールディングス	1
兵庫県庁	1
広島県教育委員会	1
福岡銀行	8(2)
福岡県庁	3(2)
福岡市役所	1
福岡法務局	1
富士通	2
富士通九州システムズ	2(1)
フージャースホールディングス	1
フューチャーアーキテクト	2
防衛装備庁	1(1)
三井住友銀行	3(2)

就 職 先	人数()
三菱UFJ銀行	3
三菱ガス化学	1
三菱自動車工業	1
三菱食品	1
武蔵コーポレーション	1
宗像市役所	1
森永製菓	1
安川電機	1
読売新聞西部本社	1
楽天	3(2)
リゾートトラスト	1
りそな銀行	2(1)
リンクアンドモチベーション	1(1)
レイヤーズ・コンサルティング	1
ワークスアプリケーションズ	1
学部集計	169(43)

就 職 先	人数()
NTTドコモ	1
YKKAP	1
九検	1
九州ゲストサービス	1
九州電力	2
九州旅客鉄道	1
ケアサブライ小倉	1
県民保険サービス	1(1)
高野山スズキ	1
コカ・コーラボトラーズジャパン	1
古賀竟成館高等学校	1
国分本社	1
サイバーエージェント	1
サニックス	1(1)
司法書士法人ライブ事務所	1
ステート・ストリート	1(1)
住友電工	1
セガゲームス	1
関家具	1(1)
双日	1
第一生命	1
第一精工	1
武田薬品工業	1
中国石化	1(1)
堤&パートナーズ法律事務所	1
デロイトトーマツコンサルティング	2(1)

就 職 先	人数()
戸田建設	1
中村学園大学	1
ニシイ	1
西日本建設業保証	1
西日本高速道路	1
日本航空	1
日本電気	1
日本電気通信システム	1
日立製作所	1(1)
福岡県産業・科学技術振興財団	1(1)
富士通	2(1)
ポジティブドリームパーソンズ	1(1)
マーキュリー	1
みずほ銀行	1(1)
三井住友銀行	1
三浦邦俊法律事務所	1
明治学園	1
ヤマハ発動機	1
有限責任監査法人トーマツ	1(1)
吉富全球	1(1)
中国・广州市	1(1)
大学院集計	57(18)
総計	226(61)

修士課程(学府)	
就 職 先	人数()
EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング	1(1)
EY新日本有限責任監査法人	1
IBM	1
JR九州	1
Kasikornbank PLC	1(1)
KPMG	1(1)
National institute oy politics	1(1)

九州大学経済学部同窓会役員名簿

(カッコ内は卒業年次～昭和、ただしHは平成) 2019年9月

役 員	氏 名	伊東信一郎副支部長
会 長	貫 正義(43)	吉元利行事務局長
副 会 長	秦 喜秋(43) 小森田憲繁(46)	関西支部 小森田憲繁支部長 太田光一副支部長
事務局長	藤井 美男(55)	中野光男副支部長 谷村信彦事務局長
監 事	貞刈 厚仁(52) 柴田 祐二(59)	福岡支部 貫 正義支部長 貞刈厚仁副支部長
顧 問	淵上 敏晴(29) 福岡 道生(30)	平井彰副支部長 道永幸典副支部長
	森山 靖章(30) 進谷 庸助(35)	村上英之副支部長
	石橋 英治(36) 池田 弘一(38)	高木直人副支部長兼事務局長
	初井 勝人(40)	
(理 事)		(評議員)
本 部	貫 正義会長 藤井美男事務局長	市村 昭三(元教官) 清水 一史(現教員)
大 学	岩田健治研究院長 丑山優名誉教授	東京支部と関西支部の理事、福岡支部の評議員の方々は、本部の評議員と兼務。
	磯谷明德教授 深川博史教授	
	清水一史教授 大石桂一教授	
	鷲崎俊太郎准教授	
東京支部	秦喜秋支部長 杉哲男副支部長	

各支部の役員

東京支部

支部長 秦 喜秋(43)
 副支部長 杉 哲男(43) 伊東信一郎(49)
 顧問 淵上 敏晴(29) 福岡 道生(30)
 池田 弘一(38) 初井 勝人(40)
 監事 今井 俊之(44) 富井 順三(50)
 理事 三輪 晴治(35) 中楯 潔(50)
 古野 孝志(55) 岩中 雄次(63)
 市村 譲(H6) 弥永 邦夫(H7)
 上田 純也(H8修) 岩貝 和幸(H15)
 青柳 未央(H16) 境 悦司(H17)
 土公 文平(H17) 宮本 傑(H17)
 稲波 祥子(H18) 亀井 祐輔(H20)
 日下部清香(H20) 竹之下一也(H24)
 中村 龍太(H24) 水田 晃斉(H24)
 倉岡慎之介(H25) 嶋田 直人(H27)
 美川 優太(H28) 宍田 莉菜(H28)
 事務局長 吉元 利行(53)
 事務局次長 川原 晃(54) 大坪 勇二(63)
 林 秀信(H3) 原山 泰之(H5)

関西支部

支部長 小森田憲繁(46)
 副支部長 太田 光一(46) 中野 光男(50)
 顧問 石橋 英治(36)
 事務局長 谷村 信彦(H3)
 事務局長代理 清丸 泰司(H2)
 会計 平山浩一郎(H8)
 監事 久保 隆二(49)
 ※以上の方は理事を兼任
 理事 江藤 正憲(27) 棚倉 亨(27)
 濱口 廣海(31) 山道 茂樹(36)
 松浦 哲也(40) 跡部 千春(44)
 甲斐 琢己(44) 園田 一蔵(49)
 佐藤 敏弘(50) 中野 善文(51)
 古賀 英基(53) 富山 幸三(56)
 片山 基之(57) 川上 寛(58)
 斉藤 浩志(60) 齊藤久美子(62修士)
 長野かおり(H元) 松浦 弘典(H元)
 北村 英照(H3) 川島 満(H4)
 権藤 健太(H4) 松延 篤(H4)
 向 勇一郎(H5) 上田 純也(H8修士)
 藤川 昇悟(H8) 凌 雲翔(H16)
 福本 翔悟(H20)

福岡支部

支部長 貫 正義(43)
 副支部長 貞刈 厚仁(52) 平井 彰(55)
 道永 幸典(56) 村上 英之(58)
 副支部長兼事務局長 高木 直人(57)
 監事 森 恍次郎(45) 三浦 正(54)
 評議員(*は運営委員)
 秀村 選三(22) 森山 靖章(30)
 江口 博(34修士) 進谷 庸助(35)
 沖 弘隆(41) 安陪 義宏(42)
 平本 公雄(42) 右田 喜章(42)
 寺原 義之(43) 貫 正義(43)
 一丸 孝憲(44) 鶴川 洋(45)
 森 恍次郎(45) 青柳 泰教(46)
 吉井 勝敏(48) 岩崎 俊彦(49)
 加藤 孝典(50) 古賀 英樹(51)
 光富 彰(51) 工藤 重之(52)
 貞刈 厚仁(52) 志村 恭子(52)
 綾部 正博(53) 岡田 裕二(53)
 境 正義(53) 小川 重巳(54)
 *嶋田 正明(54) *三浦 正(54)
 *平井 彰(55) *藤本 淳一(55)
 池上 恭子(56) 窪田 秀樹(56)
 *道永 幸典(56) 米村 健史(56)
 楠 雅之(57) *高木 直人(57)
 *村上 英之(58) *柴田 祐二(59)
 友池 精孝(59) 橋本 上(59)
 吉留 郁(59) *廣川 昌哉(60)
 田中 和教(61) 成宮 正和(61)
 高本 英一(62) *箴島 修三(H元)
 *田川 真司(H2) 山崎 正良(H2)
 *重吉 二憲(H4) 宇出 研(H5)
 *森永 洋昭(H5) *角 聡(H6)
 *山崎 浩(H7) *沖本 浩司(H8)
 手嶋 秀幸(H8) 渡邊 正司(H8)
 *松田 和俊(H9) 仲 義雄(H10)
 *宮崎 真吾(H11) *安藤 大輔(H12)
 *藤吉 由貴(H14) *森 大輔(H16)

.....
 名古屋地区 板山 和弘(54)

広島地区 佐藤 敬(23) 白石 順一(34)

大分地区 高山泰四郎(39)

日本国内初！防油堤一体型の屋外貯蔵タンク

環境にやさしく、災害にも強い

次世代型燃料タンク

- ・漏油のリスクを徹底的に排除！
- ・メンテナンスが簡単！
(法定点検不要)
- ・国土交通省の厳しい審査をクリアしたNETIS登録製品！
(QS-100037-VE)
- ・沖縄県産品！ ・工期最短！



沖縄県糸満市糸満漁港：漁船用給油取扱所



非常用発電機用燃料タンク

主な用途

- ・非常時の緊急発電用燃料タンク
- ・漁港での船舶給油用燃料タンク
- ・工場内のボイラー用の燃料タンク
- ・バスやトラック運送会社での自家用給油取扱所用軽油タンク など



《製品に関するお問合せは》

五常物産株式会社

TEL：092-526-8100 FAX：092-526-8118
〒810-0013 福岡県福岡市中央区大宮1丁目4-34
製造：コンボルト・ジャパン株式会社

福岡・東京・関西、それぞれの地の同窓会において厚遇を頂きまして、心より感謝申し上げます。



九州大学名誉教授・経済学 **福留 久大**

Hisao Fukudome

Professor Emeritus of Political Economy at Kyushu University

〒810-0014 福岡市中央区平尾5-22-31-501
Tel & Fax 092-531-7448

例会第107回を超え、一同ますます意気軒昂なり!!! 目指そう150回!!!

九大どげん会

九大経済学部S.40年(1965年)卒有志一同

第108回 R1.11.22(金) 18:00～ ホテルクリオコート博多
第109回 R2.2.21(金) 18:00～ ホテルクリオコート博多

九州大学経済学部同窓会 福岡支部副支部長

村上 英之 (昭58卒)

株式会社西日本シティ銀行
取締役専務執行役員

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-3-6
TEL:092-476-1111

九州大学経済学部同窓会 福岡支部監事
株式会社如水庵 代表取締役社長

森 恍次郎 (昭45卒)

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-19-29

九州大学経済学部同窓会 監事
柴田公認会計士事務所

公認会計士・税理士
柴田 祐二 (昭59卒)

〒813-0025 福岡市東区青葉4-11-11
TEL:080-5204-7651 FAX:092-691-6861
E-MAIL:shibata.cpa@iki.bibiq.jp

坂口 賢史 (昭37卒)

江口克哉公認会計士事務所

公認会計士・税理士
江口 克哉 (平2卒)

〒841-0039 鳥栖市土井町196-5
TEL:0942-80-0196 FAX:0942-80-0197
E-MAIL:katsuya@wak.bibiq.jp

ひびきの会計事務所 所長
リーフ株式会社 (医療機器ロボット製作) 取締役

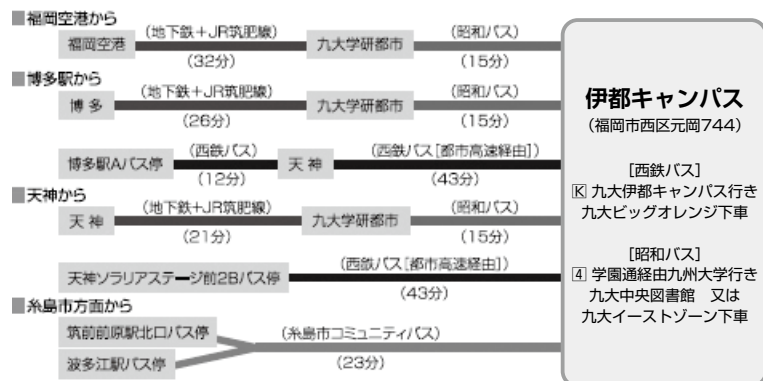
公認会計士・税理士
山口 徹也 (平5卒)

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-8
北九州学術研究都市事業化支援センター3F
TEL:093-616-8216 FAX:093-616-8235
E-MAIL:tetsuya@yamaguchi-cpa.com

御礼とお願い

同窓関係の皆さまから協賛広告の申し出を頂きました。誠にありがとうございました。
頂いた広告料は経済学部同窓会の運営資金の一部となりますので、今後共ぜひご協力の程お願い申し上げます。
なお、寄付と協賛広告のお申込み、お問い合わせは経済学部同窓会事務局 (tel:092-802-5561、e-mail:dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp) までご連絡をお願い致します。

OBOGの皆さま、経済学部にご気軽にお立ち寄り下さい!!



経済学部同窓会事務局：イースト2号館経済学部棟4F

九州大学経済学部同窓会歴代会長

- 初代 田中 定氏 (昭和50年10月4日～)(3期8年)
 第2代 森下 弘氏 (昭和58年2月4日～)(1期3年)
 第3代 岡野 正實氏 (昭和61年10月24日～)(2期6年)
 第4代 谷川 大介氏 (平成4年10月9日～)(1期1年)
 第5代 渡邊 彦士氏 (平成5年7月7日～)(1期3年)
 第6代 福岡 道生氏 (平成8年10月11日～)(1期3年)
 第7代 吉田 清治氏 (平成12年2月10日～)(1期2年)
 第8代 森山 靖章氏 (平成14年5月31日～)(1期3年)
 第9代 平山 良明氏 (平成17年7月7日～)(1期3年)
 第10代 池田 弘一氏 (平成20年7月7日～)(2期6年)
 第11代 貫 正義氏 (平成26年7月7日～)

同窓会からのお願い

同窓会会費の納入をお願い致します。

会費は、終身会費(45,000円)と普通会費(3年間分4,500円)になっております。

終身会費は一括払いと分割払いとがあります。ご都合のつくときにご協力よろしくお願い致します。

- | | | |
|-------|------|-----------------------------|
| ①終身会費 | 一括 | 45,000円 |
| ② | 3分割 | 15,000円×3回(1.5年間で納入完了) |
| ③ | 6分割 | 7,500円×6回(3年間で納入完了) |
| ④普通会費 | 3年間分 | 4,500円ずつ(11回・49,500円の納入で完了) |

◎平成18年(2006年)3月末日までに旧同窓会規定の終身会費を既に納入頂いております皆様は、そのまま新同窓会規約の終身会員に移行しております。

◎従来の普通会員として今まで振り込まれた合計金額と、49,500円との差額を、今後何回かの分割払い、または一括払いで払い込まれた場合も、終身会員に移行となります。

◎終身会費を分割払いにされます方は、半年毎に3回又は6回続けてお振り込み頂きますようお願い致します。

◎会費納入や住所変更等のデータは、令和元年9月30日現在で集計しました。

住所など身の事情に変更がございましたら、すみやかに下記同窓会事務局までご連絡ください。



九州大学経済学部同窓会事務局

(開室：平日の月・火・木・金 10時～17時)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学経済学部内

TEL 092-802-5561 / FAX 092-802-5560 / E-mail : dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp

経済学部同窓会ホームページ <http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4>

複数の同窓会関係者が写されている写真類を掲載したいと考えております。
 良いお写真をお持ちでしたら事務局までご連絡下さい。